科目名	ＰＣ演習Ⅰ	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	伊藤由美子		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/アウトドアプロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Wordを用いて簡単なビジネス文書作成ができる。同時にパソコン、ワープロ、ビジネス文書に関する基礎的な技能を習得する				
学習目標（到達目標）	サーティファイWORD文書処理技能認定試験3級　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	wordクイックマスター、WORD文書処理技能認定試験3級問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】Word基本操作 （文字入力、編集、文書の編集、印刷、作成等	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
2	【2日目】Word基本操作 （文字の作成、表を使った文書、図形や画像を使った文書等）	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
3	【3日目】問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
4	【4日目】問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	ＰＣ演習Ⅱ	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	望月巧		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/アウトドアプロ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Excelを用いてビジネス社会における簡単なわーきシートの作成とデータ入力を行うことができる。同時にパソコン、表計算、ビジネス図表に関する基礎的な技能を習得する				
学習目標（到達目標）	サーティファイEXCEL表計算処理技能認定試験3級　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	excelクイックマスター、EXCEL表計算処理技能認定試験3級問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】Excel基本操作 （データ編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成）	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
2	【2日目】Excel基本操作 （ブックの利用と管理、関数、データベース機能）	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
3	【3日目】問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
4	【4日目】問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	PC演習Ⅲ	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	笹川武康		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/クライミングインストラクター	対象学年	3年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft PowerPointに関する基礎的な技能を有しビジネスシーンを想定した仕様に従った標準的なプレゼンテーションを作成することができる				
学習目標（到達目標）	サーティファイ　プレゼンテーション技能認定試験初級　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	PowerPointクイックマスター、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】PowerPointの基本操作 （作成、文字やスライドの編集、オブジェクトの作成、表やグラフの作成、表示効果とハイパーリンク、スライドショー、カスタマイズ、動作の設定、等）	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
2	【2日目】PowerPointの基本操作　問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
3		
4		
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	英会話Ⅰ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標（到達目標）	日常会話に必要な最低限の英語力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜授業内容に関するプリントを配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	Getting Acquainted	会話と板書による学習
2	Getting Acquainted	会話と板書による学習
3	Experiences	会話と板書による学習
4	Experiences	会話と板書による学習
5	Sport & Lisure	会話と板書による学習
6	Sport & Lisure	会話と板書による学習
7	Shopping & Money	会話と板書による学習
8	Shopping & Money	会話と板書による学習
9	Food	会話と板書による学習
10	Food	会話と板書による学習
11	Travel	会話と板書による学習
12	Travel	会話と板書による学習
13	Movies & Television	会話と板書による学習
14	Movies & Television	会話と板書による学習
15	Work	会話と板書による学習
16	Work	会話と板書による学習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。

実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上

科目名	英会話Ⅱ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標（到達目標）	・ガイディングに必要な語彙力と英会話力を身につける。 ・英会話実習に向けたショップ・飲食店・宿泊施設等で使える英会話を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	語彙力（自然）	会話と板書による学習
2	語彙力（道具）	会話と板書による学習
3	語彙力（天気・地形・病気やケガ・体）	会話と板書による学習
4	ガイディングに必要な英会話（グリーンシーズン）	会話と板書による学習
5	ガイディングに必要な英会話（スノーシーズン）	会話と板書による学習
6	ガイディングに必要な英会話（ガイディングの一連の流れ）（挨拶・自己紹介・行程・危険箇所・体調・装備・体操・順番・休憩・水分補給など）	
7	5分間の英語発表（ガイディングに関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと
8	5分間の英語発表（ガイディングに関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと
9	アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方）	会話と板書による学習
10	アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方）	会話と板書による学習
11	飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計）	会話と板書による学習
12	飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計）	会話と板書による学習
13	宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内）	会話と板書による学習
14	宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内）	会話と板書による学習
15	5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと
16	5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び英語発表により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。

実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上

科目名	英会話Ⅲ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標（到達目標）	・ガイディングに必要な語彙力と英会話力を身につける。 ・英会話実習に向けたショップ・飲食店・宿泊施設等で使える英会話を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	語彙力（自然）	会話と板書による学習
2	語彙力（道具）	会話と板書による学習
3	語彙力（天気・地形・病気やケガ・体）	会話と板書による学習
4	ガイディングに必要な英会話（グリーンシーズン）	会話と板書による学習
5	ガイディングに必要な英会話（スノーシーズン）	会話と板書による学習
6	ガイディングに必要な英会話（ガイディングの一連の流れ）（挨拶・自己紹介・行程・危険箇所・体調・装備・体操・順番・休憩・水分補給など）	会話と板書による学習
7	5分間の英語発表（ガイディングに関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと
8	5分間の英語発表（ガイディングに関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと
9	アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方）	会話と板書による学習
10	アウトドアショップで必要な英会話（接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方）	会話と板書による学習
11	飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計）	会話と板書による学習
12	飲食店で必要な英会話（接客・誘導→注文→配膳・予約・会計）	会話と板書による学習
13	宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内）	会話と板書による学習
14	宿泊施設で必要な英会話（受付・誘導・案内）	会話と板書による学習
15	5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと
16	5分間の英語発表（ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容）	発表者は事前に準備しておくこと

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び英語発表により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。

実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上

科目名	コミュニケーション技法	授業形態	対面のみ	授業の方法	講義
担当教員	遠藤　晋		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	コミュニケーション能力は数年連続で、企業が採用時に求める能力ランキングでダントツ1位となっています。これからのインターンシップや就職活動を見据え、基本的なコミュニケーションスキルやビジネスマナーを習得することを目的に授業を行います。				
学習目標（到達目標）	コミュニケーション検定 合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■コミュニケーション検定初級_公式ガイドブック＆問題集　■動画で学ぶコミュニケーション（eラーニング教材）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	コミュニケーションのもつ力	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
2	聞く力	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
3	話す力①	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
4	話す力②	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
5	来客応対　／　電話応対	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
6	アポイントメント・訪問・挨拶　／　情報共有の重要性　／チーム・コミュニケーション	
7	接客・営業　／クレーム対応	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
8	会議・取材・ヒアリング　／　面接	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
9		
10		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、受講態度、検定の合否によって総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	以下のルールを守り、気持ちよく学びましょう。 ・授業の最初と最後はハッキリとした声で挨拶をすること ・ワークショップや話し合い、スピーチの機会があるときは、相手の話に頷いたり、自分の考えていることを発信するなど意思表示を心がけること（話し手への気遣い）

実務経験教員の経歴	ファシリテーション指導歴4年、就職指導科目担当

科目名	社会人常識マナー検定対策	授業形態	対面のみ	授業の方法	講義
担当教員	福山泰子		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/クライミングインストラクター	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	社会人としての必要な知識やマナーの習得を目指す				
学習目標（到達目標）	社会人常識マナー検定3級合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	社会人常識マナー検定3級テキスト/問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】社会常識（社会と組織、仕事と成果、一般常識）	筆記用具、テキスト、問題集
2	【1日目】コミュニケーション （ビジネスコミュニケーション、言葉遣い、ビジネス文書）	筆記用具、テキスト、問題集
3	【2日目】ビジネスマナー （職場のマナー、来客対応、交際業務、）	筆記用具、テキスト、問題集
4	【2日目】ビジネスマナー、検定対策 （文書等の受け取り発送、会議等）	筆記用具、テキスト、問題集
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	就職実務	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	遠藤　晋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然ガイド・自然環境保全/自然環境保全/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ	対象学年	1,2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	自己PR、履歴書の作成や模擬面接等、就職活動に必要な一連のプロセス、必要書類について学ぶ。				
学習目標（到達目標）	就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	◆ライフデザインナビ2「ビジネス適性診断」Web　◆動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）◆その他資料（ワークシート）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	就職活動の動機づけ　（ビジネス適正診断、進路希望調査）	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ビジネス適正診断の実施　■進路希望調査票に記入
2	就職活動の準備とスタート	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
3	自分と職業を理解する（自己PR)①	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
4	自分と職業を理解する（自己PR)②	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
5	面接試験対策（自己PR、一般教養、学校生活）①	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
6	面接試験対策（自己PR、一般教養、学校生活）②	
7	自分と職業を理解する・面接試験対策（志望動機）	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
8	情報収集・企業研究	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■毎回ノートOPCを持参してください。

実務経験教員の経歴	i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。

科目名	上級救命講習	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性を認識し、日常生活及びアウトドア活動において自主救護能力の向上を図ることを目的とする。				
学習目標（到達目標）	応急手当のやり方や流れを理解し、実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講習用テキスト配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	■講師紹介挨拶　重要性・必要性(DVD) ■成人に対する心肺蘇生法(１人法実技) ■AED説明(DVD) ■CPR+AED(２人１組にて実施) ■効果測定(筆記試験) ■解説 ■効果測定(実技試験) ■各応急手当実技(止血・骨折/小児CPR/乳児CPR) ■各応急手当実技(外傷手当/搬送法・保温・熱中症/体位管理・異物除去) ■まとめ(質疑応答・事務連絡等)	DVD視聴、口頭・実演による講習後、人工呼吸法・心肺蘇生法・AEDの使用法・止血法等を実践。 筆記試験と実技試験を行うことにより習熟度を確認する。

評価方法・成績評価基準	
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	修了証を発行するため最後に確認テストが行われます。

実務経験教員の経歴	外部講師：頸城消防署員

科目名	山岳基礎知識	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	用具や読図・ナビゲーション技術、気象判断などについて学び、自立した野外活動が行なえるようになるための基礎を身につけることを目的とします。また、妙高周辺の山について知り、自身の活動の幅を広げていきます。				
学習目標（到達目標）	野外での活動に関わる基本的な知識を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	登山用具の知識：個人装備、レイヤリング等 各自必要装備の洗い出し（必要装備表作成）	パワーポイント資料と登山用具を使用した学習
2	ナビゲーション技術①（地形図の読み方及び、地形図の折り方、磁北線） 基本的ロープワーク（ガイド検定内の基本の結び）	パワーポイント資料を使用した学習および実習(ロープワーク)
3	ナビゲーション技術②：現在地の同定、コンパス、バックベアリング、クロスベアリング等 ナビゲーション技術③：ナビゲーション実践	パワーポイント資料を使用した学習および実習(フィールドでの読図)
4	山での行動計画及び行程表作成（概念図） 登山計画書作成方法及び、食料計画	パワーポイント資料を使用した学習
5	火器類の使用及びメンテナンス テント組み立て方・米炊き実践	パワーポイント資料を使用した学習および実習(ガソリンストーブ・テントの使用方法と米炊き体験)
6	山の天気（天気について基本的な座学）	
7	登山の傷病 登山概論	パワーポイント資料を使用した学習
8	テスト　筆記 テスト　実技（ロープワーク）	授業内容全般から幅広く出題

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び学期末テスト・実技テストにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	登山だけでなく野外活動全般において、ベースになる知識・技術なので、確実に身につけ、屋外での授業や実習に不足なく取り組めるようにしてください。

実務経験教員の経歴	登山ガイド歴2年・専門学校での講師歴1年

科目名	スポーツ栄養学	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ／ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ／野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	「スポーツ栄養学」という言葉が生まれたのはごく最近のことです。言葉の通り、一般の人が普段の生活で必要となる食事とスポーツの分野でトップを目指すための食事は全く別のものと言っても過言ではありません。本授業では自分自身の食生活の振り返りと改善策を見つけることを目標とします。				
学習目標（到達目標）	相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	基礎から学ぶ！　スポーツ栄養学（ベースボールマガジン社）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	栄養素と食品の基礎知識 ①　エネルギーになる栄養素　（炭水化物、脂質、タンパク質）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
2	栄養素と食品の基礎知識 ②　身体をつくる栄養素　（タンパク質、ミネラル）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
3	栄養素と食品の基礎知識 ③　身体のコンディションを調整する栄養素（ビタミン、水）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
4	身体のしくみ　～消化のしくみ、代謝・吸収のしくみ～	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
5	エネルギー代謝のしくみ	
6	コンディショニングのための食事① ～アスリートにとっての食事とは～	テキスト、動画、コンビニ製品、プロテインパウダー （持ち物）筆記道具
7	コンディショニングのための食事② ～アスリートに必要な栄養素摂取とは～	テキスト、動画、スポーツドリンク （持ち物）筆記道具
8	コンディショニングのための食事 ～競技力向上のための栄養摂取～	テキスト、動画、サプリメント、医薬品 （持ち物）筆記道具

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	筆記用具、食事は毎日の事です。また競技力向上のためにはトレーニング・休養と同じようにきちんとした栄養摂取が必要となります。栄養素と食品の基本的な知識から、勝つためのスポーツ栄養学を学んでいきます。

実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	フィールド観察	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	斎藤達也/外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	64時間
授業概要、目的、授業の進め方	妙高に生息する多種多様な生き物を観察し、動植物の基本的な観察方法および基本的な知識を学ぶ。教室でのガイダンス後に野外で自然観察を行い、授業の終わりにFormsを使った小テストを行う形を基本とする。				
学習目標（到達目標）	身近に観察できる様々な生物（植物、昆虫、哺乳類、鳥、両生・爬虫類、水生生物、キノコ等）について、自分の力で観察をできるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■新・山野の野鳥　■新・水辺の野鳥　■Field Guide 23 葉で見分ける樹木（増補版） ■ポケット図鑑　身近な草花300〈郊外〉　■ポケット図鑑　身近な草花300〈街中〉				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	春の里山の自然観察（高床山）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
2	植物の観察①（i-nac周辺～清流公園）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
3	鳥類の観察①	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
4	ため池の動植物観察（ガサガサ調査）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
5	昆虫の観察（i-nac周辺）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
6	樹木の同定①（演習林）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
7	樹木の同定②（寺尾ブナ林）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
8	前期期末テスト（i-nac）	期末試験は2種類：①午前：樹木以外の動植物のテスト、②午後：樹木の50種同定（30種以上で合格。不合格者は再試験）
9	植物の観察②（i-nac周辺）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
10	秋の里山の自然観察（花房山予定）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
11	キノコの観察（高床山ｷｬﾝﾌﾟ場）	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。外部講師担当。
12	ビーチコーミング（仮）（直江津海岸予定）	教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
13	哺乳類の骨と解体（i-nac）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
14	樹木の冬芽の観察（朝日池）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
15	鳥類の観察③（朝日池）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。
16	午前：冬の動植物観察（哺乳類の足跡・食跡、樹木の冬芽）（妙高自然の家）午後：後期試験（i-nac）	JW406でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。試験は授業９～16の範囲から出題

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
授業終わりの小テスト、期末テスト、出席日数、授業態度をもとに総合的に判断する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	動きやすい恰好、汚れてもよい恰好で参加してください。ため池や川に入ることもあります。スズメバチやマダニ等もいますので、極力肌は露出しないようにお願いします。

実務経験教員の経歴	斎藤：生態学研究者として大学・自然系博物館で生物多様性研究や自然体験学習に6年間従事。

科目名	スポーツ生理学	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	運動生理学は、運動によって身体にどのような変化が応じるのか、その現象と仕組みについての基礎を理解する学問である。運動中（活動中）に身体の内部がどのような生理学的変化をするのかを学び、運動生理学の知識を身につけることで、体力の向上・健康の維持・増進のための方法について理解する。				
学習目標（到達目標）	相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	登山の運動生理学百科、A cross-country skier's training based on exercise physiology				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	運動生理学とは？（筋線維タイプについて （あなたはマグロ系？鯛系？それとも、、、）））	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
2	筋力について マッチョなボディビルダーは、マラソンが走れるか？？）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
3	エネルギー代謝とエネルギー供給系	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
4	①持久力とは？呼吸循環系の持久力 （心拍で運動コントロール）	テキスト、動画、実技、心拍計にて実施
5	②持久力とは？筋持久力（登山しよう！トレランしよう！ 山は天然トレーニングジム）	テキスト、動画、実技、心拍計にて実施
6	効果的な持久トレーニング（最新!!ノルディックフィットネス） 神経について（ 神経が筋肉を司る）	
7	成長過程で考えるトレーニング （継続は力なり！でもやみくもにやってもねぇ、、、）	テキスト、動画、実技
8	登山と疲労。登山と体力トレーニング。 （山が好きな人はとっても大事）	テキスト、動画、

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	筆記用具、時計

実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	農業	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	生井一広		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	54時間
授業概要、目的、授業の進め方	僻地の農村での農作業の体験(棚田での米作り)を通し、里山という空間、またそこで育まれたもの（人も含む）との触れ合いから感じるものを、今後の人生の選択に役立てられることを目的とする。				
学習目標（到達目標）	土地と水と種もみがあれば米を作れるようになる。里山という空間の人の営み、生物の多様性、変遷を理解、想像できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、農業について　上小沢について　　上小沢散策　苗代つくり　床土入れ　播種　　覆土	教室でガイダンス後、フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。最後に一日を振り返り、発表する。
2	田起こし　畔塗	フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。最後に一日を振り返り、発表する。
3	代掻き・江刈り	フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。最後に一日を振り返り、発表する。
4	田植え	フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。最後に一日を振り返り、発表する。
5	畔草刈り　草取り	フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。最後に一日を振り返り、発表する。
6	畔草刈り　草取り	
7	畔草刈り　草取り	フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。最後に一日を振り返り、発表する。
8	稲刈り　はさがけ	フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。最後に一日を振り返り、発表する。
9	脱穀　もみすり　はさこわし　ぬか釜炊飯　試食	フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。最後に一日を振り返り、発表する。
10	雪国の冬仕事、　まとめ	フィールドに出かけ野外学習、実習を実施する。各自一年を振り返り発表する。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席日数、授業態度、提出レポートで総合的に評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	自然相手の作業のため、天候、雪解け状況等、成長具合により日程および内容の変更があります。

実務経験教員の経歴	造園業の企業に11年勤務。その後国際アウトドア専門学校（現国際自然環境アウトドア専門学校）に入学。自然環境について学ぶ。卒業後、1年間の研修期間を経て個人事業主として山間地の農村の棚田で自然栽培、手作業での稲作を営む。（10年目）

科目名	アクティビティデザイン	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	小野 彰太、吉田 理史	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	自然体験活動の指導者として必要な知識、姿勢を身につける。また、短時間での活動の企画・運営を行うプロセスを学び、プログラムデザインへ繋がる企画・運営力を身につけることを目的とする。				
学習目標（到達目標）	・様々なアクティビティを自ら楽しんで体験することを通して、体験活動のねらいや意義を理解・実感する。 ・体験に応じた指導者の関わり方を理解し、選択できるようになる。 ・目的に応じた自然体験活動を選択し、企画、実施まで行えるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜資料配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション・アイスブレイク/自然と触れ合うアクティビティー体験	講義、演習　担当：小野
2	AM：人と触れ合う体アクティビティー体験（PAプログラム中心）PM：自然と触れ合うアクティビティー	講義、演習、振り返り　担当：小野
3	AM：キャンプアクティビティー体験（タープ設営・たき火・クッキング等）PM：「ファシリテーターになろう」準備・講義	講義、演習、振り返り　担当：小野
4	アクティビティー演習　　ファシリテーターになろう（アクティビティの実践）アクティビティの評価	講義、演習、振り返り　担当：小野
5	アクティビティ企画（講義、フィールド調査、企画実践） フィールドサインを作ろう	講義、演習　担当：小野
6	ワークショップ～自然体験の意義～・レポート作成に向けて	
7	冬のアクティビティー体験・企画　　雪上運動会を企画しよう	演習、振り返り　担当：小野
8	雪上での安全管理と指導法（スキー体験の指導を通して）	演習、振り返り　担当：吉田

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、企画書・レポート、演習内容から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	「アクティビティ」はプログラムの基礎です。しっかりと身につけ、プログラム企画に繋げましょう。 自然体験の楽しさを伝え、子どもや大人の豊かな成長の場を作れる指導者を目指しましょう。

実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。 吉田：民間で、12年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。全日本スキー連盟公認準指導員。

科目名	アウトドアスポーツ	授業形態	対面のみ	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋/田辺慎一/外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全／野外教育・アウトドアスポーツ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。3年間の目標である登山ガイド及び自然ガイドの資格取得のために、野外活動の基礎であるナビゲーションスキル・ロープワークを習得することを目的とする。				
学習目標（到達目標）	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	登山地図、25,000分の1地形図（国土地理院発行）、その他配布資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	クライミング基礎（i-nacウォール）	山岳プロ学科1年と合同
2	クライミング基礎（i-nacウォール）	山岳プロ学科1年と合同
3	クライミング基礎（物見岩）	山岳プロ学科1年と合同
4	ノルディックウォーキング	
5	ナビゲーション基礎（笹ヶ峰）	山岳プロ学科1年と合同
6	MTB	
7	カヤック	
8	SUP	
9	山岳ロードマラソン入門（MURA18）	
10	ロングトレイル入門(信越トレイル)	山岳プロ学科1年と合同
11	ナビゲーション実践（難波山）	山岳プロ学科1年と合同
12	トレイルランニング	
13	オリエンテーリング	
14	MTB	
15	積雪期ルートナビゲーション（坪岳）　　スノーシュー	山岳プロ学科1年と合同
16	クロスカントリースキー	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度、技術習熟レベル等、総合的に評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	授業内容によっては、体力のレベルに応じて、難易度が変化します。日頃から基礎体力の向上に努めるようにしてください。

実務経験教員の経歴	服部：各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年、外部講師：実務経験5年以上

科目名	野外教育	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	小野 彰太		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	野外教育指導者として必要な「野外教育」や「野外活動」の理論や基本的知識について、実例等を踏まえながら学習する。また、指導実践に向けて、キャンプインストラクターの役割や指導法、安全管理等について学習する。本授業は、日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成講習会を兼ねて実施される。				
学習目標（到達目標）	公益社団法人日本キャンプ協会キャンプインストラクター 合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人 日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」 その他、適宜資料配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、野外教育とは、自然体験の意義、生活技術	講義、グループワーク
2	キャンプの特性、キャンプの対象	講義、グループワーク
3	キャンプの指導	講義、グループワーク
4	キャンプの安全、さまざまなアクティビティ	講義、グループワーク
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、グループ討議、筆記試験から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	自然体験活動の指導者として、野外教育という分野は関連性の深い内容となります。自らの専門性を高める為、将来的に多くの方に自然体験を提供する為、積極的に受講して下さい。 筆記試験合格者でキャンプ実習の受講生は、任意で日本キャンプ協会キャンプインストラクター資格の取得が可能です。

実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。日本キャンプ協会キャンプディレクター2級。

科目名	森林生態環境	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	森林の減少や劣化は、地球環境問題の１つとなっています。それほど悪化してしまった森林の状況が今後も続いた場合何が起るのか？私たちの日々の暮らしに問題がでてくるのか？この授業では、森林の様々な働きやその働きによって私たちが受けるたくさんの恩恵を学びます。また、森林の保全に向けた世界、日本、地域レベルの取り組み事例を紹介し、プロとして自然と関わる幅広い視点を養います。				
学習目標（到達目標）	森林生態系の仕組みや働きについて、説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス：森林を学ぶとは？（ブナ林を例に）	パワーポイント資料を使用。
2	森林生態系（物質循環と食物連鎖について）	パワーポイント資料を使用。
3	森林の構造（発達段階、階層構造とパッチ構造）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
4	森林の保水機能（土壌の層構造、三相組成、孔隙組成について）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
5	森林の動態（森林の撹乱、遷移、更新について）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
6	樹木の構造と機能（材、葉、シュート、花、種子について）	
7	樹木の生活史戦略（種子、実生、繁殖について）	パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。
8	期末テスト	授業内容全般から幅広く出題。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
期末試験点数、出席率、学習意欲で総合的に評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	この科目は森林生態学の基礎を学びます。授業の最初に前回授業の内容に関する小テスト（30点満点、18点以上合格）を実施します。復習讐をしっかりするように。期末試験は授業内容全般から幅広く出題されます。出席率80%未満または飢渇試験60点未満は追試となります。

実務経験教員の経歴	森林生態学の研究者として、6年間研究職および保全プロジェクトに従事。また、自然系博物館で森林資源評価・保全と地域活性化に2年間従事。

科目名	環境教育ワークショップ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	小野　彰太	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	入学以後半年間の授業やインターンシップ、その他の経験を踏まえ、環境教育の現状や意義、関連分野、将来の方向性等について学生間での討論を行う。 環境教育に対する各自の考え方を共有するとともに、現時点における意見・考え方の学生間の共通性や相違性を認識する。また、仕事としての環境教育について、ニーズや将来の課題を探ることを目的とする。				
学習目標（到達目標）	「環境教育とは何か」について、自分なりの考えを構築することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	授業ガイダンス、学生個別シート作成	配布の「学生個別シート」に記入後、発表。学生間で考え方や、価値観の共有を図る。
2	ワークショップ概論、ワークショップ①（グループワーク）	「環境」を巡る諸問題とその解決に向けた取組（産官学、行政/民間、団体/個人etc..）について、グループワーク。まとめたものを発表。
3	ワークショップ②：「環境教育」についての学生発表、討論	パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聞き手の学生は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。 【発表内容】①何のために（What）環境教育の目的（環境教育が目指すもの）とは？　②なぜ（Why）環境教育はなぜ必要なのか？重要性とは？ ③いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、だれに(Whom)、どのように(How)　＊環境教育の具体的な活動例を紹介（活動以外に分野、業種、仕事．．などでもOK）＊複数例紹介すること　＊発表者のこれまでの経験、活動も含めて検討すること　④環境教育に対する自分の考え（まとめ） ＊インターネット検索や書籍等で得た情報を引用した場合、 その引用内容と自分の考えを分けて発表すること。 【発表形式等】・持ち時間は15～20分とします。・パワーポイントで準備すること（他のプレゼン資料を望む場合は、田辺まで要相談）・プロジェクターを使用。・板書も併用OK ・発表当日の12:00までに、発表に使うファイルをメール添付で田辺まで送ること
4	ワークショップ③：「環境教育」についての学生発表、討論	
5	ワークショップ④：「環境教育」についての学生発表、討論	
6	ワークショップ⑤：「環境教育」についての学生発表、討論 冬休み課題：「自分」を書く（原稿スタイル、内容、画像、レイアウト等）の説明	
7	冬休み課題の発表、意見交換	【課題】・自分の考え方・価値観を書く（→リレートークに登場する方々の文章を参考に）・本文（800～1,200字）・プロフィール(200～300字)・画像（1～2枚）【自分が写っている画像＋α】・タイトル（→配布資料「リレートーク」を参考に）・A4（縦書き　段組み4段）・おすすめの○○　映画とか音楽とか書籍とか　・フォント、文字サイズは自由　・Wordで作成すること
8	冬休み課題の発表、意見交換	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、主体性から総合的に評価します。特に討論への積極的な姿勢を重視します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	「環境教育」について、各自パワーポイントにまとめてきた内容を発表してもらいます。聴講側となった学生は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入し、グループ内で発表および討論をしてもらいます。

実務経験教員の経歴	自然系博物館の環境教育事業に2年間従事。

科目名	基礎体力トレーニング	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニング法の実際を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、ランニングコースの確認（ランニング）　トンネル8km　5分歩き5分走り（60%）	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下速歩：70%以上ラン）トンネル8km	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ランニングふれパコース　ウォーク＆ラン　姿勢の確認（姿勢作り、ポイント確認）　ふれパ60分	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下：70%以上　）NHMコース	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ランニングサーキット（筋持久力＋全身持久力　1度で2度美味しいトレーニング）	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下：70%以上）　NHMコース	
7	下半身サーキットJP系（下半身に特化した筋力トレーニングをしよう）　ふれパ20分×2セット	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	ジョグ＆ラン　（運動強度60%以下：70%以上）　ふれパ上り100mダッシュ	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度70%以下）MURA10㎞コース	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	ラン　まだらお毛無山＆希望湖　トレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	ラン　信越五岳コース　アパ～学校（約8km）　トレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	ラン　信越五岳コース　蔵々～アパ（約5km）　上りトレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	SAQトレーニング＆ラン　ふれパ（体育館）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	ラン＆サーキットトレーニング　ふれパ（体育館）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	室内での筋力トレーニング（JWSC）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	室内での筋力トレーニング（JWSC）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	基礎体力トレーニング指導演習	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるためのトレーニング法の安全管理や指導を行えるようになる。1年次に経験したトレーニング法の技術・知識を更に深める。				
学習目標（到達目標）	各種トレーニング（呼吸循環持久力、筋持久力、筋力）の安全管理、インストラクション方法を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、ランニングコースの確認（ランニング）　トンネル8km　5分歩き5分走り（60%）	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下速歩：70%以上ラン）トンネル8km	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ランニングふれパコース　ウォーク＆ラン　姿勢の確認（姿勢作り、ポイント確認）　ふれパ60分	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下：70%以上　）NHMコース	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ランニングサーキット（筋持久力＋全身持久力　1度で2度美味しいトレーニング）	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ウォーク＆ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度60%以下：70%以上）　NHMコース	
7	下半身サーキットJP系（下半身に特化した筋力トレーニングをしよう）　ふれパ20分×2セット	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	ジョグ＆ラン　（運動強度60%以下：70%以上）　ふれパ上り100mダッシュ	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	ラン　自分にあったペースを探ろう（運動強度70%以下）MURA10㎞コース	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	ラン　まだらお毛無山＆希望湖　トレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	ラン　信越五岳コース　アパ～学校（約8km）　トレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	ラン　信越五岳コース　蔵々～アパ（約5km）　上りトレイルラン	（雨天時）ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	SAQトレーニング＆ラン　ふれパ（体育館）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	ラン＆サーキットトレーニング　ふれパ（体育館）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	室内での筋力トレーニング（JWSC）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	室内での筋力トレーニング（JWSC）	ふれあいパーク体育館及びＪＷＳＣトレーニングルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	アルプス登山実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/松井茂/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	3年生がガイドとして1年生を顧客に見立て3泊4日のツアーを企画運営し、1年生に登山技術の基礎を指導する。また1年生は3年生のガイディングを学ぶとともに、冬山に入る前のアルプスを経験し、今後の冬山の実習に備える。				
学習目標（到達目標）	基礎的な登山技術や無積雪期のテント泊での生活技術を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	3年生が作成した顧客用配布資料と国土地理院2万5千分1地形図を配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	学校で打ち合わせ・準備	行程の再確認・1年生の装備チェック・団体装備振り分け・食事メニューの決定・食料買い出し
2	3泊4日の山行（立山を予定）	山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり
3		
4		
5		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	日中の最高気温は10度以下、最低気温にあってはマイナスになることも考えられます。また10月初旬で雪が降ることもありますので、防寒具についてはしっかりとしたものを持ってきてください。 （装備） ザック、登山靴、レインウェア、防寒具（フリース、ダウン等）、着替え、ニット帽、グローブ、シュラフ、マット、ヘッドランプ（電池予備含む）、コッヘル、カトラリー、地図、コンパス、常備薬、サングラス、トイレットペーパー、メモ帳、ボールペン、時計等　別紙しおり参照 3年生より事前ガイダンスあり。

実務経験教員の経歴	中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション（1997～2006年）、インフィールド代表（個人事業、2006年～現在）　ガイド歴20年以上。 松井茂：株式会社山と溪谷社　『山と溪谷』『ROCK&SNOW』編集部副編集長、国際自然環境アウトドア専門学校副校長、現在　妙高山学ガイド組合組合長、（一社）妙高ツーリズムマネジメント理事

科目名	雪上キャンプ実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	田辺慎一/外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ｶﾞｲﾄﾞ環境保全/山岳プロ学科/ｱｳﾌﾟﾛ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	雪上での諸活動（スノーシューハイク、キャンプ生活等）を通して、冬期活動の基本的なノウハウや安全管理について学ぶ。 ■活動内容　①雪上で2泊のキャンプ実践　（ベースキャンプの設営および雪上での野外炊飯などを行う）②スノーシューでの行動、安全・確実なルートファインディングを行う。③クインジー（雪洞）を作って泊まる実践				
学習目標（到達目標）	① 雪上でのテントをつかった幕営を、安全に行うことができる　②安全かつ居住性のあるクインジー（雪洞）を設営することができる　③地形図を見ながら、尾根と沢を区別し、確実なルートファインディングができる　④雪上キャンプでの炊事を、仲間と協力しながら効率良く行える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	2万5千地図を配布。その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	■ 講義（306室）■装備チェック■雪洞づくり講習（4Xコースor自然の家）■ 共同装備等振り分け・食料買い出し	班別にグループワーク（雪上活動のリスクについてディスカッション、装備チェック、装備振り分け等）
2	■ inac集合、出発■ﾍﾞｰｽｷｬﾝﾌﾟ着&テン場設営開始■夕食準備　　■夕食&ミーティング	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。
3	■起床・朝食準備■朝食■テン場発■宿泊地点着　雪洞づくり　■夕食準備■ 夕食&ミーティング	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。
4	■起床・朝食準備■朝食■テン場発■inac着　後片付け■ ふりかえり■解散	班毎に準備ができ次第、出発。その後も班別に活動（引率教員は、各班に1名）。学校に戻ってからの振り返りは、全員そろってから開始します。
5		
6		
7		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、実習目標4点の自己評価結果、事後レポート等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■事後レポート課題：実習目標4項目それぞれについて点数（各項目25点満点）をつけ考察する。実習での反省をふまえて、自分自身に足りなかったことや今後身につけるべきことなどを考えながら、実習の感想も含めたレポートを作成すること。Wordを使用、A4用紙2ページ以上（文字数は1,600文字以上）

実務経験教員の経歴	主担当（田辺慎一）：大学山岳部5年間（北海道日高山脈が主な活動地域、冬期縦走経験豊富）。

科目名	雪上スポーツ	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	服部正秋/田辺慎一/外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科/ｱｳﾌﾟﾛ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキーの技術の向上、知識の獲得を通じて、積雪期における野外活動への理解を深めることを目的とする。				
学習目標（到達目標）	アルペン：各自の技術レベルに応じて設定。 ①ﾌﾞﾙｰｸﾎﾞｰｹﾞﾝでｽｷｰ場の初級者ｺｰｽを滑走できる。 ②ﾊﾞﾗﾚﾙﾀｰﾝでｽｷｰ場の中級者ｺｰｽを滑走できる。 ③ｽｷｰ場の上級者ｺｰｽで安定した滑走ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	事前に「受講調査票」を配布。その他資料を適宜配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	■実施場所：杉ノ原スキー場 ■活動班：習得レベル別（下記4段階）に分けられた班ごとに活動 ア．はじめて。 イ．ﾌﾞﾙｰｸﾎﾞｰｹﾞﾝでｽｷｰ場の初級者ｺｰｽを滑走できる。 ウ．ﾊﾞﾗﾚﾙﾀｰﾝでｽｷｰ場の中級者ｺｰｽを滑走できる。 エ．ｽｷｰ場の上級者ｺｰｽで安定した滑走ができる。 ■装備：□スキー　□ブーツ　□スキーポール □雪上活動用ウェア（厚手）☒帽子（ニット）☒ □グローブ　□ゴーグル　□昼食 □日焼け止め等その他必要なもの ■チケット手配に関して ＊スキー場での3日間は、杉ノ原スキー場のシーズンパスを持っている学生（もしくはスーパーシーズン券等持っていて使用できる学生）はそれを使ってください。 ＊また19歳の学生は杉の原スキー場が平日リフト無料になります。（平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれ） ※対象者は、19歳になる前でも利用可能 登録がありますので、該当する学生で利用したい学生は、実習前までに必ず登録しておいてください。 https://majibu.jp/yukimaji19/pc/about/ ＊シーズンパスを持っていない学生、または20歳リフト券無料に該当しない学生に関しましては、1日券×3日分を当日、自分でスキー場で購入してもらいます。
2	■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	
3	■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	
4	■i-nac出発（9:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■クロスカントリーコースにて講習 ■i-nacにて解散	■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカントリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ ウインドブレーカーもしくはレインウエアのような薄手の上下ウエア（防寒対策として厚手のウエアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等　天気が良ければかなり汗をかきます）　□サングラス（ゴーグルだとくもります） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど）　□日焼け止め　□昼食　□飲み物等

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、実技習得レベル等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■受講生は別紙、「受講調査票」を提出してください。 ■アルペンスキーではゲレンデでのスキー基本的技術を学ぶので、可能な限りファットスキー、テレマーク以外のスキーを持ってきてください。 ■装備の準備について不安がある学生は早めに相談してください。安全管理上、装備が不十分の学生の受講は認めません。 ■特に初心者は、ヘルメットの着用を強く推奨します。 ■スキー、レンタルは手配しません。必要な学生は内田スポーツへの相談をお勧めします（年間レンタルもかなり安くしてもらっています）

実務経験教員の経歴	■服部正明：クロスカントリースキー競技歴30年、国体出場9回　■田辺慎一：スキー歴30年以上、指導歴10年以上　■外部講師：スキースクール講師

科目名	キャンプ実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	小野 彰太、吉田 理史		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/自然ガイド・環境保全／山岳プロ／ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	2泊3日のキャンプ活動を通して、以下の目標および技術習得を達成しi-nacにおける野外活動の基礎を構築することを目的とする。なお、本実習は日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成講習会を兼ねて実施される。				
学習目標（到達目標）	・バックパッキングに必要な技術の習得 ・ コミュニケーション、リーダーシップの重要性を認識する ・ 現時点での自分の力量・課題を明確にする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	山と渓谷社「ヤマケイ・テクニカルブック登山技術全書②トレッキング縦走登山」				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、アイスブレイク、目標設定、装備・食材準備、登山計画作成	講義、グループワーク（個人作業⇒グループ共有⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備）
2	実習地移動、キャンプ場オリエンテーション、テント・タープ設営、野外炊事①、ナビゲーション講習（整地、磁北線、山座同定、ストレートハイク）	講義、実地演習、振り返り・グループワーク
3	野外炊飯②、バックパッキングオリエンテーション（キャンプ場～スキー場周辺～戸隠奥社周辺）、野外炊飯③、キャンプファイヤー	実地演習、グループワーク、振り返り
4	野外炊飯④、撤収（テント・タープ、食器、清掃）、実習総括	実地演習、ふりかえり、レポート作成
5		
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、振り返りシートによる自己評価、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	技術習得については、振り返りシートにより自己評価及び、班内のメンバーによる他者評価を行い多角的に評価を行います。ソフト（メタ）スキルについては、活動毎に振り返りの時間を設けグループ単位で分析、一般化のプロセスを重視します。 実習の事前、事後で自らの課題を内省させ、発表させます。実習後には、レポート作成を課し、自らの課題と力量を記録として残します。

実務経験教員の経歴	小野：民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。 吉田：民間で、12年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。（公社）日本キャンプ協会指導者養成委員。

科目名	森林管理実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	余頃　友康		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全/野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	安全にチェーンソーや刈払機を操作し、樹木の伐倒や草木の刈り払いを行えるようにするため、「林業・木材製造業労働災害防止協会」が発行する教科書に即して、学科および実技の講習を行う。				
学習目標（到達目標）	安全にチェーンソーや刈払機を操作し、樹木の伐倒や草木の刈払いを行えるようになること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	チェーンソー作業の安全ナビ、安全な刈払機作業のポイント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	伐木造材講習（3日間の内、1日目）	教科書に即して学科および実技の講習を行う。
2	伐木造材講習（3日間の内、2日目）	教科書に即して学科および実技の講習を行う。
3	伐木造材講習（3日間の内、3日目）	教科書に即して学科および実技の講習を行う。
4	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	教科書に即して学科および実技の講習を行う。
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	森林を管理するためには、チェーンソーや刈払機の使用は不可欠です。 これらの器具の適切な利用方法、作業時の安全確保について理解することは非常に大切です。

実務経験教員の経歴	林業の現場に20年間従事。

科目名	キャンプビジネス実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	服部正秋/田辺慎一		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	都市公園でのキャンプ空間デザイン、およびアウトドアフィットネスの実践とヒアリングを通して、都市空間をはじめとしたさまざまな空間でのキャンプやアウトドアの可能性を探る				
学習目標（到達目標）	アウトドア業界の新たな価値提案として都市公園などを拠点に「都市型アウトドア空間デザイン」を考える。またそこを拠点にしたアウトドアフィットネスやキャンプビジネスのあり方を創造する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	＊ガイダンス ＊国内におけるアウトドア・キャンプ業界のニーズ ＊国内における余暇市場/アウトドア業界の移り変わり	講義
2	＊都市公園視察：東京臨海広域防災公園・新木場公園・平和島公園 ＊昭和の森フォレストビレッジキャンプ場（15:00）	現地にて実習を行う
3	＊BEACH TOWN視察 ＊那珂アーバンキャンプ場(15：00)	現地にて実習を行う
4	*PARKERS TOKYO視察 *BEACH TOWN日比谷公園　視察	現地にて実習を行う
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	森林を管理するためには、チェーンソーや刈払機の使用は不可欠です。 これらの器具の適切な利用方法、作業時の安全確保について理解することは非常に大切です。

実務経験教員の経歴	田辺慎一実務経歴10年、服部正秋実務経歴7年

科目名	リスクマネジメント	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ／自然ガイド・環境保全／野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	野外での活動時に生じる様々な「リスク」について、把握、分析し適切にコントロールするために必要なスキルを身に付けることを目的とする。 本授業では、リスクに対する個別の対処法（搬送法、救急法等）の習得ではなく、状況把握や状況判断を適切に行い、事故を予防するための一連のプロセスについて学ぶ。また、自然界での危険な動植物等への知見を広め、その対策や対処法等を学ぶ				
学習目標（到達目標）	自分自身と他者のリスクの「発見」「把握」「分析」「対処」の違いを理解すること				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	外部講師の用意した資料を使用				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	【1日目】 「リスクの発見・把握および評価・分析」 教室での講義、学校周辺のフィールド（清流公園等）でのイニシアティブゲーム等の実技を通してリスクのアセスメントについて学びます。 【2日目】 「危険生物対策について」講義 【3日目】 「リスクの発見・把握および評価・分析」 1日目と同様の内容を実施します。 「リスクのコントロール」 教室での講義、学校周辺のフィールドでのイニシアティブゲーム等の実技を通してリスクのコントロールについて学びます。 【4日目】 沢登り（予定）の実技を通してリスクのコントロールについて学びます。 授業終了予定	※天候等によりスケジュールを変更することがあります ※毎日野外で活動できる服装で参加してください。 ※４日目については昼食を持参してください ＊筆記用具

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	民間事業にて実務経験10年以上、当授業実務経験5年以上

科目名	生態学	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	八木寛之		実務授業の有無	×	
対象学科	自然ガイド・環境保全/自然環境保全／山岳プロ／野外教育・アウトドアスポーツ／キャンプビジネス	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	自然とは？生態系とは？国内外のテキストや事例を使って、生態学の基礎知識を習得しながら、私たちと自然環境との関係のあり方を探ります。 また、生物多様性保全の推進のために必須である外来種対策および自然再生について、その基本的な考え方を学びます。				
学習目標（到達目標）	生物と環境に関する基礎科目である生態学の一般的なキーワードについて覚え、その内容を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキストは使わないが、授業中に参考図書を紹介する。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	[宇宙船地球号 ～私と自然環境～] 自分にとって自然とは？生態学の学習に先立ち、自分と自然環境との関わりを見つめ直す。	スライドを使用した学習
2	[生態学の基礎] 生態学とは？種とは？生物間相互作用とは？	スライドを使用した学習
3	[生物多様性について] 生物多様性とは？なぜ守る必要があるのか？	スライドを使用した学習
4	[生物間相互作用と適応放散] 生物×他の生物×環境	スライドを使用した学習
5	[生物の地理分布と個体群動態] 絶滅の渦、環境容量、成長曲線 等	スライドを使用した学習
6	[ウェットランドの生態系] River Ecosystem-河川生態系の基礎知識- 等	スライドを使用した学習
7	[貴重種と外来種 ～その考え方と実際～] 貴重種の基準、外来種の基準 等	スライドを使用した学習
8	[まとめ・試験]	スライドを使用した学習(復習)、筆記試験
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、レポートおよび最終試験から総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	自然界には様々な環境があり、そこには色々な生物がいて、相互に影響しあいながら暮らしています。その興味深い関わりにふれてみましょう。その学習のなかで、自分の自然への想いを見つめ直してみましょう。

実務経験教員の経歴	

科目名	野外活動指導実践I	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	津山ゆり		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	現在、野外教育の分野は今までの青少年（小、中、高校生）へ向けたものだけでなく、より幅広い対象者（幼児やビジネスパーソンまで）へ拡大を続けている。また、ニーズについても多様化してきており、教育という点においても、対象に合わせてより高度な理解と提供できるソフト力が求められるようになってきている。 本実習では、昨今の野外教育のおかれる状況を理解した上で、野外指導者としてより専門的なプログラム提供を通して社会に貢献できる資質を備えることを目的とする。野外教育・アウトドアスポーツ学科二年次の野外指導実践Ⅱへの基礎となる実習である。				
学習目標（到達目標）					
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	実習ガイダンス（実習の進め方）	講義
2	実習準備、フィールドでの演習、次回演習の準備	講義、実地演習、振り返り・グループワーク
3	実地演習(野外スキル、指導の実践)	実地演習、グループワーク、振り返り
4	実地演習(野外スキル、指導の実践)	実地演習、ふりかえり、レポート作成
5		
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、振り返りシートによる自己評価、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	技術習得については、振り返りシートにより自己評価及び、班内のメンバーによる他者評価を行い多角的に評価を行います。ソフト（メタ）スキルについては、活動毎に振り返りの時間を設けグループ単位で分析、一般化のプロセスを重視します。 実習の事前、事後で自らの課題を内省させ、発表させます。実習後には、レポート作成を課し、自らの課題と力量を記録として残します。

実務経験教員の経歴	大学在学中および卒業後にフリーランスで野外教育指導に合計5年間従事。

科目名	野外活動指導実践II	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	吉田理史		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	これまでに修得してきた野外活動における諸スキルをベースに、自然環境に配慮したLNTの７原則とさまざまな教授法を用いた指導を経験学習サイクルで実践する。また、自然環境下でのソロ遠征（24時間以上）によって野外教育指導者としての意識向上を目指す。 なお、本実習は野外教育・アウトドアスポーツ学科１年次の野外指導実践Ｉの応用と位置づけられた実習である。				
学習目標（到達目標）					
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	実習ガイダンス（実習の進め方）、遠征の準備	講義、実習
2	LNTを活用したソロ遠征、テント泊	実地演習、振り返り・グループワーク
3	ソロ遠征期間、リフレクション、施設泊	実地演習、グループワーク、振り返り
4	撤収、フィードバック	実地演習、ふりかえり、レポート作成
5		
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、振り返りシートによる自己評価、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	技術習得については、振り返りシートにより自己評価及び、班内のメンバーによる他者評価を行い多角的に評価を行います。ソフト（メタ）スキルについては、活動毎に振り返りの時間を設けグループ単位で分析、一般化のプロセスを重視します。 実習の事前、事後で自らの課題を内省させ、発表させます。実習後には、レポート作成を課し、自らの課題と力量を記録として残します。

実務経験教員の経歴	民間で、12年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。（公社）日本キャンプ協会指導者養成委員。

科目名	インタープリテーション	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/野外教育・アウトドアスポーツ/山岳プロ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	インタープリテーションに必要な知識・技術を習得することを目的とする。				
学習目標（到達目標）	自身の力でインタープリテーションを企画・実践できるようになること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	インタープリテーションとは インタープリテーションのフィールドおよびテーマの検討①	インタープリテーションというものについて座学で指導をする。
2	インタープリテーションの企画書の要素、文献調査の方法 インタープリテーションのフィールドおよびテーマの検討②	インターネットを活用して文献調査の方法などを指導する。
3	インタープリターに必要な基礎的な技術、能力 インタープリテーションのフィールドおよびテーマの決定	インタープリターにはどのような能力が必要か、類似する資格と比較しながら検討する。
4	フィールドの下見 インタープリテーションの構想の発表①	各自発表場所に行き、安全確認やインタープリテーションの素材探しを行う。
5	インタープリテーションの構想の発表② 教室での予行演習①、企画書・資料・道具づくり	インタープリテーションのテーマやストーリー、準備の計画等を発表する。
6	教室での予行演習② 企画書・資料・道具づくり	教室内で、本番さながらにインタープリテーションを実施する。
7	フィールドでのインタープリテーションの実施①	フィールドに出て、学生が1人ずつ自身のインタープリテーションを行う。
8	フィールドでのインタープリテーションの実施②	フィールドに出て、学生が1人ずつ自身のインタープリテーションを行う。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行う。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	初めてのフィールドにおいても、インタープリテーションを実施するための文献調査、フィールド調査、コース設定などを自分で行える技能が身に付きます。 この技能は様々なフィールドや状況で応用でき役立ちます。

実務経験教員の経歴	野外教育の指導に24年間従事。

科目名	自然ガイド企画・実践Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	斎藤 達也/小野 彰太/田辺慎一/杉山隆	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ(選択)	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	山岳ガイド協会（以下：JMGA）が認定する自然ガイドに求められる自然の知識や基本スキルの習得を目的とする。本授業は、JMGA「自然ガイド」資格が課程認定されるカリキュラムに含まれる。				
学習目標（到達目標）	場所、時期、対象にあわせ、1時間ほどのガイドプログラムの企画・運営ができるようになる ①ガイド実施前：装備、服装、挨拶、プログラム概要説明、リスク説明 ②ガイド実施中：自然の全体説明、詳細説明、自然への配慮、ペースメイク/タイムキープ、安全管理				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜、資料配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス、ガイド装備	講義、演習、グループワーク
2	ロープテクニック、ツェルト、搬送、ナビゲーション、事前運動	講義、演習、グループワーク
3	ガイド資料作成	講義、演習、グループワーク
4	プロの自然ガイディングを体験（大潟水と森公園）	実地演習、振り返り
5	自然ガイド情報収集・実践（学科別）	実地演習、振り返り
6	自然ガイド情報収集・実践（学科別）	実地演習、振り返り
7	自然ガイド情報収集・実践（学科別）	実地演習、振り返り
8	ロープテクニック、ツェルト、搬送、ナビゲーション、事前運動	講義、演習、グループワーク
9		
10		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ガイドプログラムの内容から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	この科目では、身近な自然や地域の文化・民俗を紹介できることが大切です。日々の情報収集を心がけてください。 3年次には、「自然ガイド検定対策Ⅰ・Ⅱ」の実習でガイドの実技試験があるので、この授業でガイド練習をしっかりと積むようにしてください。

実務経験教員の経歴	斎藤：大学・自然系博物館研究員として自然環境調査やその教育普及に6年間従事。小野：i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。JMGA自然ガイドステージⅡ。田辺：大学・自然系博物館研究員として自然環境調査やその教育普及に従事。

科目名	自然ガイド企画・実践Ⅱ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	斎藤 達也/小野 彰太/田辺慎一/杉山隆	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	32	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	山岳ガイド協会（以下：JMGA）が認定する自然ガイドに求められる自然の知識や基本スキルの習得を目的とする。本授業は、JMGA「自然ガイド」資格が課程認定されるカリキュラムに含まれる。				
学習目標（到達目標）	場所、時期、対象にあわせ、1時間ほどのガイドプログラムの企画・運営ができるようになる ①ガイド実施前：装備、服装、挨拶、プログラム概要説明、リスク説明 ②ガイド実施中：自然の全体説明、詳細説明、自然への配慮、ペースメイク/タイムキープ、安全管理				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜、資料配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス、ガイド装備　4/16	講義、演習、グループワーク
2	ロープテクニック、ツェルト、搬送、ナビゲーション、事前運動　4/30	講義、演習、グループワーク
3	ガイド資料作成　6/4	講義、演習、グループワーク
4	プロの自然ガイディングを体験（大潟水と森公園）6/11	実地演習、振り返り
5	自然ガイド情報収集・実践（学科別）　6/18	実地演習、振り返り
6	自然ガイド情報収集・実践（学科別）　6/25	実地演習、振り返り
7	自然ガイド情報収集・実践（学科別）　7/9	実地演習、振り返り
8	ロープテクニック、ツェルト、搬送、ナビゲーション、事前運動　7/14	講義、演習、グループワーク
9		
10		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ガイドプログラムの内容から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	この科目では、身近な自然や地域の文化・民俗を紹介できることが大切です。日々の情報収集を心がけてください。 3年次には、「自然ガイド検定対策Ⅰ・Ⅱ」の実習でガイドの実技試験があるので、この授業でガイド練習をしっかりと積むようにしてください。

実務経験教員の経歴	斎藤：大学・自然系博物館研究員として自然環境調査やその教育普及に6年間従事。小野：i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。JMGA自然ガイドステージⅡ。田辺：大学・自然系博物館研究員として自然環境調査やその教育普及に従事。

科目名	森林生態保護	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/ｷｬﾝﾌﾟﾄﾞｼﾞｪｽ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	森林の減少や劣化は、地球環境問題の１つとなっています。それほど悪化してしまった森林の状況が今後も続いた場合何が起るのか？私たちの日々の暮らしに問題がでてくるのか？この授業では、森林の様々な働きやその働きによって私たちが受けるたくさんの恩恵を学びます。また、森林の保全に向けた世界、日本、地域レベルの取り組み事例を紹介し、プロとして自然と関わる幅広い視点を養います。				
学習目標（到達目標）	森林保全の現状や様々な取り組みについて、自分の意見や考えを構築し述べることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	授業ガイダンス、グループワーク：森は守るべきか？	各自の意見をまとめ、グループデスカッション後、発表する。
2	森林の働きを考える：生態系サービスの話	パワーポイント資料を使用。授業最後に「振り返りシート（A5）」に各自の意見や考え、感想をまとめる。
3	クマ問題：クマと人の共生は可能か？	パワーポイント資料を使用。授業最後に「振り返りシート（A5）」に各自の意見や考え、感想をまとめる。
4	里山問題：里山林の社会、経済、環境的状況を考える	パワーポイント資料を使用。授業最後に「振り返りシート（A5）」に各自の意見や考え、感想をまとめる。
5	森林の生物多様性：生き物のつながり	パワーポイント資料を使用。授業最後に「振り返りシート（A5）」に各自の意見や考え、感想をまとめる。
6	森の癒し効果を活用した地域づくり～森林セラピー基地を軸とした地域ツーリズム～	
7	森を守る取り組み～環境規制、FSC、カーボンオフセットほか	パワーポイント資料を使用。授業最後に「振り返りシート（A5）」に各自の意見や考え、感想をまとめる。
8	期末テスト	各自の意見や考えを問う、記述式問題を多く出題。
9		
10		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
期末試験点数、出席率、学習意欲で総合的に評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	1年次後期履修の森林生態環境で基礎的な知識をしっかり習得しておくこと。この科目は森林保全の応用的な科目として、国内外の保全の現状や社会・経済的な取り組みを幅広く学びます。授業の最後に各自の意見や考えを「振り返りシート（A5）」に記入してもらいます。期末試験は記述式の問題が多く出題されます。出席率80%未満または飢渇試験60点未満は追試となります。

実務経験教員の経歴	森林生態学の研究者として、6年間研究職および保全プロジェクトに従事。また、自然系博物館で森林資源評価・保全と地域活性化に2年間従事。

科目名	ヨガⅠ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	実技
担当教員	大田絵里		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	日常生活の中で行いやすいアウトドアスポーツの代表でもあるヨガを学ぶことで、自身の健康への意識を高めるとともに、競技力を高めるための精神力、身体力を養う。また日本のアウトドアスポーツや健康問題への現状をヨガを通して理解していく。				
学習目標（到達目標）	ヨガを通してアウトドアフィットネスの理解と同時に自身の健康維持・増進を図る				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ヨガ講義と実践 （ヨガとは、ヨガの歴史など）	ヨガマット・筆記用具・飲み物
2	ヨガ講義と実践 （現代社会におけるニーズなど）	ヨガマット・筆記用具・飲み物
3	ヨガ講義と実践 （現代社会におけるニーズなど）	ヨガマット・筆記用具・飲み物
4	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
5	ヨガ実践	
6	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
7	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
8	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
9	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
10	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
11	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
12	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
13	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
14	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
15	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
16	振り返り・まとめ	ヨガマット・筆記用具・飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	筆記用具、ヨガマット、

実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義・実務経歴10年以上

科目名	ヨガⅡ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	実技
担当教員	大田絵里	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	日常生活の中で行いやすいアウトドアスポーツの代表でもあるヨガを学ぶことで、自身の健康への意識を高めるとともに、競技力を高めるための精神力、身体力を養う。また日本のアウトドアスポーツや健康問題への現状をヨガを通して理解していく。				
学習目標（到達目標）	ヨガを通してアウトドアフィットネスの理解と同時に自身の健康維持・増進を図る				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ヨガ講義と実践 （ヨガとは、ヨガの歴史など）	ヨガマット・筆記用具・飲み物
2	ヨガ講義と実践 （現代社会におけるニーズなど）	ヨガマット・筆記用具・飲み物
3	ヨガ講義と実践 （現代社会におけるニーズなど）	ヨガマット・筆記用具・飲み物
4	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
5	ヨガ実践	
6	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
7	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
8	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
9	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
10	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
11	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
12	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
13	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
14	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
15	ヨガ実践	ヨガマット・筆記用具・飲み物
16	振り返り・まとめ	ヨガマット・筆記用具・飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40％、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	筆記用具、ヨガマット、

実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義・実務経歴10年以上

科目名	プログラムデザインⅠ（前期）	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	小野 彰太	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	国際自然環境アウトドア専門学校（以下、i-nac）が有するさまざまな資源を地域社会の多様な場面で活用し、地域社会の発展に貢献できる事業を企画・運営する能力を身につけることを目的とする。 そのために、i-nac生涯学習室が主催する日帰りの自然体験講座（野遊びキッズ倶楽部）の企画・運営を行う。				
学習目標（到達目標）	①目的に沿ったプログラムの企画力・運営力を習得する。 ②プログラムの企画運営に必要な知識・技術を習得する。 ③①・②を用いた応用方法について検討する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ほんの森出版「リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイク　ベスト50」　他に資料を適宜配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	授業オリエンテーション、プログラム立案について、広告文の検討	講義、グループワーク
2	第1回についての企画	グループワーク
3	第1回プログラム準備、第2回についての企画	グループワーク
4	第2回についての企画	グループワーク
5	**第1回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
6	第2回のプログラム準備、第3回についての企画	
7	第3回についての企画	グループワーク
8	**第2回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
9	第3回のプログラム準備、※一部プログラムマネジメントと入替の時間有	グループワーク
10	前期ふりかえり、秋号チラシ広告文検討	グループワーク
11	**第3回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、企画準備状況、運営状況、企画書・レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	上記日程に予定されていない下見、準備等については、別途連絡をしますので柔軟に対応してください。 また、実際の講座運営が円滑に進められるよう、準備段階から受講生全体のコミュニケーションが密になるよう心がけてください。

実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。 民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。

科目名	プログラムデザインⅠ（後期）	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	小野 彰太		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	国際自然環境アウトドア専門学校（以下、i-nac）が有するさまざまな資源を地域社会の多様な場面で活用し、地域社会の発展に貢献できる事業を企画・運営する能力を身につけることを目的とする。 そのために、i-nac生涯学習室が主催する日帰りの自然体験講座（野遊びキッズ倶楽部）の企画・運営を行う。				
学習目標（到達目標）	①目的に沿ったプログラムの企画力・運営力を習得する。 ②プログラムの企画運営に必要な知識・技術を習得する。 ③①・②を用いた応用方法について検討する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ほんの森出版「リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイク　ベスト50」　他に資料を適宜配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	チームビルディング、アイスブレイクについて	講義、演習、グループワーク
2	第4回についての企画	グループワーク
3	第4回についての企画	グループワーク
4	**第4回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
5	第4回のプログラム準備、第5回についての企画	グループワーク
6	第5回、第6回についての企画	
7	**第5回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
8	第5回のプログラム準備、第6回についての企画	グループワーク
9	第6回のプログラム準備	グループワーク
10	**第6回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
11	今年度ふりかえり、来年度について	振り返り、グループワーク

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、企画準備状況、運営状況、企画書・レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	上記日程に予定されていない下見、準備等については、別途連絡をしますので柔軟に対応してください。 また、実際の講座運営が円滑に進められるよう、準備段階から受講生全体のコミュニケーションが密になるよう心がけてください。

実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。 民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。

科目名	プログラムデザインⅡ（前期）	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	小野 彰太	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	国際自然環境アウトドア専門学校（以下、i-nac）が有するさまざまな資源を地域社会の多様な場面で活用し、地域社会の発展に貢献できる事業を企画・運営する能力を身につけることを目的とする。 そのために、i-nac生涯学習室が主催する日帰りの自然体験講座（野遊びキッズ倶楽部）の企画・運営を行う。				
学習目標（到達目標）	①目的に沿ったプログラムの企画力・運営力を習得する。 ②プログラムの企画運営に必要な知識・技術を習得する。 ③①・②を用いた応用方法について検討する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ほんの森出版「リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイク　ベスト50」　他に資料を適宜配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	授業オリエンテーション、プログラム立案について、広告文の検討	講義、グループワーク
2	第1回についての企画	グループワーク
3	第1回プログラム準備、第2回についての企画	グループワーク
4	第2回についての企画	グループワーク
5	**第1回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
6	第2回のプログラム準備、第3回についての企画	
7	第3回についての企画	グループワーク
8	**第2回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
9	第3回のプログラム準備、※一部プログラムマネジメントと入替の時間有	グループワーク
10	前期ふりかえり、秋号チラシ広告文検討	グループワーク
11	**第3回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、企画準備状況、運営状況、企画書・レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	上記日程に予定されていない下見、準備等については、別途連絡をしますので柔軟に対応してください。 また、実際の講座運営が円滑に進められるよう、準備段階から受講生全体のコミュニケーションが密になるよう心がけてください。

実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。 民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。

科目名	プログラムデザインⅡ（後期）	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	小野 彰太	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	国際自然環境アウトドア専門学校（以下、i-nac）が有するさまざまな資源を地域社会の多様な場面で活用し、地域社会の発展に貢献できる事業を企画・運営する能力を身につけることを目的とする。 そのために、i-nac生涯学習室が主催する日帰りの自然体験講座（野遊びキッズ倶楽部）の企画・運営を行う。				
学習目標（到達目標）	①目的に沿ったプログラムの企画力・運営力を習得する。 ②プログラムの企画運営に必要な知識・技術を習得する。 ③①・②を用いた応用方法について検討する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ほんの森出版「リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイク　ベスト50」　他に資料を適宜配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	チームビルディング、アイスブレイクについて	講義、演習、グループワーク
2	第4回についての企画	グループワーク
3	第4回についての企画	グループワーク
4	**第4回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
5	第4回のプログラム準備、第5回についての企画	グループワーク
6	第5回、第6回についての企画	
7	**第5回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
8	第5回のプログラム準備、第6回についての企画	グループワーク
9	第6回のプログラム準備	グループワーク
10	**第6回野遊びキッズ倶楽部**	企画の実践、振り返り
11	今年度ふりかえり、来年度について	振り返り、グループワーク

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、企画準備状況、運営状況、企画書・レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	上記日程に予定されていない下見、準備等については、別途連絡をしますので柔軟に対応してください。 また、実際の講座運営が円滑に進められるよう、準備段階から受講生全体のコミュニケーションが密になるよう心がけてください。

実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。 民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。

科目名	アウトドアインストラクター演習Ⅰ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	田辺慎一/服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	112時間
授業概要、目的、授業の進め方	様々なアウトドアスポーツを経験しながら、身体づくり、魅力、リスク、安全管理を深めます。またアウトドアスポーツの魅力を伝えるための技術、フィールドでの指導法の実際を学びます。 日常の生活から取り入れやすいノルディックウォーキングの指導法や、トレイルランニングレースのスタッフとして大会運営　NHMとMURA18の大会運営を行う事で、アウトドアスポーツの指導方法、イベント運営方法も学んでいきます。				
学習目標（到達目標）	ノルディックフィットネスのインストラクション方法を学ぶ。また大会の企画運営のノウハウを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス：MURA18概要、ノルディックハーフマラソン	授業での持ち物、時間等の連絡はその都度事前に行いますので確認をお願いします。また天候により内容・場所を適時検討することもあります。授業は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますのでよろしくお願いします。
2	げんき妙高NW教室ガイダンス＆ノルディックハーフマラソン準備	
3	げんき妙高NW教室下見 ＆ノルディックハーフマラソン準備	
4	げんき妙高NW教室① ＆ノルディックハーフマラソン準備	
5	げんき妙高NW教室② ＆ノルディックハーフマラソン準備	
6	ノルディックハーフマラソン in Myoko 2018 大会前日　準備	
7	ノルディックハーフマラソン in Myoko 2018 大会当日　運営	
8	げんき妙高NW教室③ ＆ノルディックハーフマラソン片づけ	
9	げんき妙高NW教室④＆MURA18準備	
10	げんき妙高NW教室⑤＆MURA18準備	
11	げんき妙高NW教室⑥	
12	げんき妙高NW教室⑦ ＆MURA18準備	
13	げんき妙高NW教室⑧ ＆MURA19準備	
14	げんき妙高NW教室⑨ ＆MURA18準備	
15	MURA18準備	
16	MURA18大会前日　準備	
17	MURA18大会当日　運営	
18	げんき妙高NW教室⑩ ＆MURA18片づけ	
19	げんき妙高NW教室⑪＆ノルディックハーフマラソン打ち合わせ	
20	げんき妙高NW教室⑫＆ノルディックハーフマラソン打ち合わせ	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外での実技を行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また、雨天時は室内での実技を行うため室内シューズが必要になります。

実務経験教員の経歴	田辺慎一実務経歴10年、服部正秋実務経歴7年

科目名	アウトドアインストラクター演習Ⅱ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	田辺慎一/服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	112時間
授業概要、目的、授業の進め方	様々なアウトドアスポーツを経験しながら、身体づくり、魅力、リスク、安全管理を深めます。またアウトドアスポーツの魅力を伝えるための技術、フィールドでの指導法の実際を学びます。 日常の生活から取り入れやすいノルディックウォーキングの指導法や、トレイルランニングレースのスタッフとして大会運営　NHMとMURA18の大会運営を行う事で、アウトドアスポーツの指導方法、イベント運営方法も学んでいきます。				
学習目標（到達目標）	ノルディックフィットネスのインストラクション方法を学ぶ。また大会の企画運営のノウハウを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス：MURA18概要、ノルディックハーフマラソン	授業での持ち物、時間等の連絡はその都度事前に行いますので確認をお願いします。また天候により内容・場所を適時検討することもあります。授業は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますのでよろしくお願いします。
2	げんき妙高NW教室ガイダンス＆ノルディックハーフマラソン準備	
3	げんき妙高NW教室下見 ＆ノルディックハーフマラソン準備	
4	げんき妙高NW教室① ＆ノルディックハーフマラソン準備	
5	げんき妙高NW教室② ＆ノルディックハーフマラソン準備	
6	ノルディックハーフマラソン in Myoko 2018 大会前日　準備	
7	ノルディックハーフマラソン in Myoko 2018 大会当日　運営	
8	げんき妙高NW教室③ ＆ノルディックハーフマラソン片づけ	
9	げんき妙高NW教室④＆MURA18準備	
10	げんき妙高NW教室⑤＆MURA18準備	
11	げんき妙高NW教室⑥	
12	げんき妙高NW教室⑦ ＆MURA18準備	
13	げんき妙高NW教室⑧ ＆MURA19準備	
14	げんき妙高NW教室⑨ ＆MURA18準備	
15	MURA18準備	
16	MURA18大会前日　準備	
17	MURA18大会当日　運営	
18	げんき妙高NW教室⑩ ＆MURA18片づけ	
19	げんき妙高NW教室⑪＆ノルディックハーフマラソン打ち合わせ	
20	げんき妙高NW教室⑫＆ノルディックハーフマラソン打ち合わせ	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外での実技を行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また、雨天時は室内での実技を行うため室内シューズが必要になります。

実務経験教員の経歴	田辺慎一実務経歴10年、服部正秋実務経歴7年

科目名	ファシリテーション演習Ⅰ	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	兼重尚子	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	これからの指導者に必要な、人と関わっていく上で必要な人間関係のファシリテーションのスキルと考え方の基礎を体験を通じて学ぶ。ふりかえりの仕方を学ぶ				
学習目標（到達目標）	自分のコミュニケーションの傾向を知り、体験学習を通じて、あらたな行動や考え方の選択肢を増やす。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	金子書房「実践　人間関係づくりファシリテーション」				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション・ファシリテーションの必要性・体験学習による循環過程など、概論/	実習自己紹介を使っての体験学習の循環過程の体験的理解と、説明
2	コンテントとプロセス	実習ある会議１を使い、プロセスを書き出してコンテントとプロセスについて理解する
3	プロセスに関わる	実習ある会議３を使って、自分の他者への関わり方について知る
4	観察する～非言語メッセージについて	3人組で聴く・聴かれる・観察するの役割の中で観察のしかた、その活用の仕方を学ぶ
5	価値観と感情（コンセンサスについて）	ペア実習でお互いの価値観を知る。コンセンサス実習を通じて、お互いの考えの背景を知る。
6	自己概念・自己開示とフィードバック	
7	対人関係のプロセスとコミュニケーション・ほか	簡単な実習と解説/問題解決実習を使ってこれまでの学びを実践する
8	まとめ	前期の学びをふりかえる

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、学習意欲、グループワークの関わり方、ファシリテーションの実践での習熟度レベル、期末レポートの提出および内容等で総合的に評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	各回ふりかえり用紙を必要に応じ記入してもらうが、この内容が期末レポートを書く際に必要な資料となるので、しっかりふりかえって記録を残しましょう。締め切り後の提出は追試とします。

実務経験教員の経歴	兼重コーチング事務所代表、CPCC（米国CTI認定プロフェッショナル・コーアクティブコーチ）、主催講座開催歴５年以上、社会福祉団体、企業、ＮＰＯ等への研修を2005年より行う

科目名	ファシリテーション演習Ⅱ	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	兼重尚子	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	ファシリテーターとして実習を行い、仲間からフィードバックをもらいながら共に成長していく。				
学習目標（到達目標）	実習の中でファシリーションに必要なスキルを活用する。またふりかえりのファシリテーターを実践し、観察結果をいかせるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	金子書房「実践　人間関係づくりファシリテーション」				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ファシリテーターを実践するための準備	組み分けと実習を指定し、各チームでファシリテータをする準備を行う
2	ファシリテーター実践	一方通行のコミュニケーション実習のファシリテーターを行ったあとクリティークを行う
3	ファシリテーター実践	一方通行と双方向のコミュニケーション実習のファシリテーターを行った後クリティークを行う
4	ファシリテーター実践	コンセンサス実習のファシリテーターを行ったあと、クリティークを行う
5	ファシリテーター実践	話し合い実習のファシリテーターを行ったあと、クリティークを行う
6	ファシリテーター実践	
7	ファシリテーター実践	なんらかの実習のファシリテーターを行った後、クリティークを行う
8	まとめ	後期の学習のまとめとふりかえりを小グループで分かち合い、その後全体でシェアする。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、学習意欲、グループワークの関わり方、ファシリテーションの実践での習熟度レベル等で総合的に評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	最後の授業で事後レポート課題を伝えます。作成したレポートは、兼重にメール添付で提出してください。締め切り後の提出は追試とします。

実務経験教員の経歴	兼重コーチング事務所代表、CPCC（米国CTI認定プロフェッショナル・コーアクティブコーチ）、主催講座開催歴５年以上、社会福祉団体、企業、ＮＰＯ等への研修を2005年より行う

科目名	アウトドアイベント実践	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	SFMT事務局/服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本を代表するトレイルランニングレース（信越五岳トレイルランニングレースSFMT）の運営に携わることで、運営側の作業や当日の安全管理等を実際に行うことでアウトドアイベントの知識を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	大会の企画、運営準備				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	（1日目）事務局でのあいさつ、オリエンテーション、大会概要確認、作業内容確認、作業 （2日目）作業（外作業、内作業に分かれる）大会準備と大会運営（誘導員、当日ボランティア指示、受付） （3日目）大会運営（誘導員、ボランティア指示スタッフとして） （4日目）大会運営（誘導員、ボランティア指示すたっふとして） （5日目）撤収作業（杭、看板、フラッシュライト等）総括	・作業（草刈り等）できるしたく（長靴、軍手、長そで長ズボン等）・草刈り機・パソコン・筆記用具・着替え等
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	実務経歴7年

科目名	アウトドアスポーツ実習（フィットネス）	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	丸山さき／服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ／自然ガイド環境保全／野外教育・アウトドアスポーツ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	①日常の生活に取り入れやすいノルディックウォーキングやヨガの知識や実際を学び、自身の健康増進のフィットネスとして理解を深める。 ②アウトドアスポーツの中で、人気が高まっているトレイルランニングの知識や技術を学ぶ事で、これからのアウトドアスポーツ業界の動向を深めると共に、実際にレースに参加しトレイルランニングの魅力を学ぶ。 ③現代社会の中で健康志向が高まっている理由とその重要性を理解し、アウトドアスポーツから現代の健康問題について考える。				
学習目標（到達目標）	昨今の現代社会における「ライトアウトドアスポーツ」のニーズの理解（レポート、実践）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	斑尾トレイルランニングマップ、トレイルランニングDVD、日本ノルディックフィットネス協会アクテビティリーダーテキスト、ノルディックポール				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	【1日目】トレイルランニング概要 ①実際にトレイルを走ってみよう!! （トレイルで実践的なテクニックを学ぶ） （２６ｋｍコースを下見します） ②How toトレイルランニング （身体の使い方/上り下りの走り方/トレーニング方法/レースでの心構え） 【2日目】ヨガ ヨガ実践とヨガの動向【市場】について 昼食 現代社会での健康問題について。 【3日目】ノルディックウォーキング概要 （ノルディックウォーキングAL養成講座） ①ノルディックウォーキングの知識と実際 （ヘルスレベル・フィットネスレベル・スポーツレベル） ②ノルディックフィットネスの実際 （ウォーミングアップ・クールダウン・筋トレ・コーディネーション） 【4日目】・レースデビュー!! トレイルランニングレースに出場しよう!! 斑尾トレイルランニングレースに参加し、レース、イベントの雰囲気を実際に肌で感じながら思いっきり楽しもう！また自身の体力の限界を知ることで今後の身体づくりの必要性を知ろう！	・筆記用具 ・短パンもしくはスパッツ（七分・ロングなんでも良い） ・Tシャツもしくはロング T・ランニングでも可（化繊） ・日よけ（帽子・サンバイザー・サングラスなど） ・トレイルランニングシューズ（もしくはランニングシューズ） ・トレイル専用小型リュックサック（もしくは小型のサックできるだけ小さいもの） ・くま鈴（ある人は持ってきてください） ・行動食（小型ザックに入れていきます） ・水分（トレラン中に補給するもの。終了後に補給するもの2つあったほうが良い） ・防寒着（薄手のウインドブレーカー、レインジャケットなど） ・着替え等（多少の雨でも行いますし、汗をかくと思います。終わった後の着替え） ・虫除け（なくてもいいですが、あったほうがいい）

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	アウトドアビジネス実習Ⅰ	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	遠藤晋・白倉寛司	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	①アウトドア業界における地域に根差した新たな動きや、それに基づくビジネスを実践的に学ぶ②今回の実習では、MTBのトレンドとなっている「地域内での持続可能なトレイルづくり」の動きを実践者や現場から学ぶことで、アウトドアスポーツを使って、どう地域に貢献していけるかの一例を学ぶ				
学習目標（到達目標）	持続可能性、地域との合意形成、フィールドとしての魅力、トレイルシェア、マネタイズ、マーケティング等、アウトドアスポーツによる地域ビジネスを作り上げるために必要なことを統合し、地域ビジネスを自分で創っていくための視点を持つ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	9:00 inac302室集合　　講義＋実技(天候によりスケジュール決定) ◆バイク合わせ、スキルアップ講習(MTBに乗り慣れておく) ◆MTBトレイルに関わるローカルの動きについて、情報提供 ◆翌日以降の準備、バイクも準備しておく ＜使用バイク＞i-nacバイク	講義、実地演習
2	8:00マテリアルルーム前集合 上越：白倉氏と上越マウンテンバイク協会の活動についてヒアリング+トレイル整備	実地演習
3	9：00マテリアルルーム前集合 ＋ 池の平温泉スキー場：白倉氏とコース整備　ライド	実地演習
4	7：20マテリアルルーム前集合 午前/三条市GSCトレイル：ローカルライダー＆ビルダー竹石氏にヒアリング、コースライド 午後/角田浜トレイル：コース紹介、ライド	実地演習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、実習中の習熟レベル、事後レポート等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	遠藤：日本マウンテンバイク協会B級インストラクター、実務経験2年 白倉：妙高池の平アルペンブリックマウンテンリゾートMTBコースプロデューサー、（一財）自転車産業振興協会スポーツバイクメカニック養成講師5年以上

科目名	アウトドアスポーツ実習（パドル）	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	石川 義治		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	2年/1年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	本実習はカヤックに関する基礎的な技術の習得ならびに指導資格の取得を通じて、自然体験活動の指導者としての資質を高めることを目的として実施する。なお、本実習は（一社）日本セーフティカヌーイング協会（以下JSCA）が認定するJSCAインストラクター／ガイドベーシック・カヤックの検定講習会を兼ねて実施される。				
学習目標（到達目標）	JSCAインストラクター／ガイドベーシック・カヤック　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト：JSCA公認テキスト、SRPテキスト 関連資料：JSCA　検定課目ガイドライン				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、静水講習①：基礎パドリング、静水講習②：基礎パドリング、講義①【総論】、筆記試験①	実地演習、講義、筆記試験
2	静水講習③：基礎パドリング、安全技術研修：セルフレスキュー、ボート（牽引、TX）、講義②【安全】、筆記試験②、検定ガイダンス	実地演習、講義、筆記試験
3	実技検定、1）漕艇技術、2）指導技術：模擬講習（陸上）、3）安全技術（陸上、講義③【カヌーの基礎知識】、筆記試験③、川下りｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	実技試験、ロールプレイ、講義、筆記試験
4	川下り実践（長野市大岡特産センター～大原間）、流水の仕組み（本流、エディ）、川下りの方法、セルフレスキュー実践、総括、結果発表	実地演習、振り返り
5		
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、振り返り時の発表内容、試験結果から総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	資格認定には、筆記試験の合格（75点以上）、実技試験の合格（5段階評価AAA、AA、A、B、CでA以上）が必要となる。 実技においては、積極的な練習と反復が必要となる。 講義においては、積極的に受講し取り組むこと。

実務経験教員の経歴	ウクディパドリングスクール代表。1999年よりカヤック／カヌーインストラクターとして20年従事。 JSCA顧問、JSCAインストラクター・トレーナー、ACA（アメリカカヌー協会）ホワイトウォーター・インストラクター（カヤック）

科目名	アウトドアビジネス実習Ⅱ	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	黒野崇／服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	アウトドアビジネスの実際について学び、自ら事業企画書を作成することを通して、「アウトドア業界で働く」「アウトドアを仕事にする」ことについての理解を深め、意欲を高める。				
学習目標（到達目標）	昨今の現代社会におけるアウトドア業界のニーズの理解（レポート、講義、見学）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本レジャー白書（10年間分データ）、国内外人口統計、訪日観光客統計データ、各企業資料、各企業ホームページ、外部講師資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	【1日目】 ＊「ASICS　ランニングステーション」見学 ＊「BLUE多摩川」 ＊講演（黒野代表） 株式会社BEACH TOWNのアウトドアフィットネス事業について 【2日目】 ＊「コミュニティパーク八潮」見学 【3日目】 ＊アウトドア業界をとりまく日本の社会情勢について （人口統計、日本レジャー白書、訪日観光客統計など） 事業企画書の作成（アイディアを具現化するために） ＊仕事に関する価値観、興味関心の明確化 【4日目】 ＊事業企画書の作成 ＊事業企画プレゼンテーション	【持ち物】 ＊筆記用具、PC、着替え等（宿泊が伴います） ＊1日目の昼食、夕食　2日目の朝食、昼食は各自に任せます。 【事前課題・事後レポート】 ①現時点での自分の進路や将来的な職業に関する展望を明確にする。 ②ケーススタディで学ぶ各社について、Webサイトを中心に以下の観点で情報収集する。 ・各社の事業は何を目的として行われているのか。 ・各社の商品、サービスはどのようなものであり、顧客に対してどのような価値を提供するか。 ・他の企業にはない各社の特徴や強みは何か。 ③実習後には上記①～②、および本実習での学習内容をもとにしたレポート課題を課します。 【その他】 　野外活動に関する知識や技術の習得を目的とする授業ではありません。授業の目的をふまえ、得られるものが多くなるよう取り組んでください。　５Ｗ１Ｈ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	黒野崇（株）ＢＥＡＣＨＴＯＷＮ代表取締役 各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年年以上

科目名	ウィルダネスファーストエイド	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	林 智加子	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ 自然ガイド・環境保全	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	50時間
授業概要、目的、授業の進め方	緊急医療体系へと引き継ぐまでに時間のかかる状況での野外救急法を学び、さまざまな身体機能の問題や障害から引き起こされるトラブルや、野外における環境やストレスからくる怪我や体調不良に対処する応急知識・技術を習得する。なお、本実習はスリップストリームジャパンが認定するWFA（Wilderness first Aid）50時間コースの認定講習会を兼ねて実施される。				
学習目標（到達目標）	WFA（Wilderness first Aid）50時間コースの認定　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スリップストリームジャパン「フィールドブック」 MSDマニュアル家庭版（https://www.msdmanuals.com/ja-jp/ホーム）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、総論（学習領域、法律）、感染、包帯・三角巾、大出血、ショックと予防	講義、演習、復習（課題）
2	傷病者記録シート、骨折（頭部、背骨、胸部、骨盤、四肢）、頭部のケガ、腹部のケガ、各種対応方法、アセスメントシステム	講義、演習、ロールプレイ、復習（課題）
3	リスクマネジメント、傷（破傷風）、火傷、日焼け、マメ、脱水症状、溺水、心臓発作、脳卒中、一酸化炭素中毒、低体温症、各種対応方法	講義、演習、ロールプレイ、復習（課題）
4	凍傷、高温障害（熱疲労、熱中症）、目・鼻のケガ、アレルギー（アナフィラキシーショック）、薬について、脱臼、シナリオトレーニング	講義、演習、ロールプレイ
5	筆記テスト、搬送方法、シナリオトレーニング、総括、結果発表	演習、ロールプレイ
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、筆記試験（マークシート）、実地演習の内容、講習認定の合否など総合的に評価。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	講習は50時間の履修が必須となります。実習中、遅刻、早退、欠席には留意し自己管理を行うこと。 実習ガイダンスで告知される事前学習、準備物を全て確認し取り組むこと。知識が不足している場合、実習に参加できない可能性もあります。また、実習中課された復習課題にも積極的に取り組むこと。

実務経験教員の経歴	スリップストリームジャパン公認インストラクター。登山ツアーSoleil代表。 日本山岳ガイド協会登山＆スキーガイド　ステージⅡ、日本雪崩ネットワーク雪崩業務従事者　レベル2を有し、2014年よりガイド業、講習会講師を務める。

科目名	自然公園実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	斎藤達也	実務授業の有無	○		
対象学科	自然ガイド・環境保全/野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	本実習では新潟県内の博物館や県立公園などの社会教育施設を巡りその展示やバックヤードを視察し、一部の施設では学芸員やインタープリターにより施設の機能や方針について解説頂く。それにより自然公園や博物館の社会的役割と課題を学ぶ。				
学習目標（到達目標）	① 自然公園および博物館の社会的役割について理解を深める 。②様々な社会教育施設を観ることで、情報の伝わりやすい展示とは何かを理解し、その目を磨く。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	訪問先の自然公園・博物館等のHP、パンフレット等。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	地質系博物館の視察	施設に移動し展示をメモしながら見学する。学芸員等によるご説明がある場合もある。
2	自然史系・歴史民俗系博物館の視察	施設に移動し展示をメモしながら見学する。学芸員等によるご説明がある場合もある。
3	水族系博物館の視察	施設に移動し展示をメモしながら見学する。学芸員等によるご説明がある場合もある。
4	ラムサール条約湿地等の自然公園の視察	施設に移動し水鳥等を観察しながら視察の機能を考察する。
5	ビジターセンター、植物園の視察	施設に移動し展示をメモしながら見学する。学芸員等によるご説明がある場合もある。
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、レポートから総合的に評価します。施設視察中には施設ごとに評価シートを作成して頂きます。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	実習参加者は社会教育者と客の2者の立場で視察を行い、展示の教育効果や課題を批評的かつ生産的に考察することを心掛けて頂きたい。また新潟市方面の施設を巡る際には宿泊となる予定である。持ち物等は後日連絡する。

実務経験教員の経歴	自然系博物館の研究員として展示作成・解説に3年間従事。

科目名	バックカントリー実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/吉田美栄	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期の代表的な野外活動であるスキー・スノーボード・スノーシューを用いたバックカントリーでの活動を題材として、雪崩リスクマネジメントを中心とした、冬期の野外活動に必要なスキルを習得し、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。				
学習目標（到達目標）	① 積雪期におけるルートナビゲーション及びプランニングを実施し、自然ガイドステージⅡの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。 ・プランニング・登山計画書の作成・気象判断・行動判断・ナビゲーション ②積雪期のバックカントリーエリアで安全に活動するための基礎的なスキルを習得する。 ・雪崩地形の認識、積雪の観察と積雪安定性評価の基礎 ・グループマネジメント・セルフレスキュー等について学ぶ ③バックカントリーツアーを体験する ・妙高周辺のフィールドにおける学生主導のバックカントリーツアーを実施する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	東京新聞　増強改訂雪崩リスク軽減の手引き NPO法人日本雪崩ネットワークウェブサイト　http://nadare.jp/				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	（AM）座学 ・バックカントリー滑走のための基礎知識 ・セルフレスキュー（ビーコン）	パワーポイント資料を使用した学習および実習(フィールドでのビーコン捜索)
2	（AM）座学 ・雪崩地形での行動判断 ・積雪安定性の評価　等	パワーポイント資料を使用した学習および翌日からのツアーのプランニング
3	バックカントリーツアー　坪岳（ナビゲーション）	雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。
4	バックカントリーツアー　シャルマン火打スキー場～放山	雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション（1997～2006年）、インフィールド代表（個人事業、2006年～現在）ガイド歴20年以上

科目名	ガイド検定筆記試験対策	授業形態	対面。遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	遠藤　晋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ 自然ガイド・環境保全 山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	卒業年次の6月に受験する、公益社団法人日本山岳ガイド協会の第一次試験（筆記試験）に向けた対策として、教本を元に自然ガイドの基礎的知識及び専門的知識分野について対策授業を行う。				
学習目標 （到達目標）	ガイドに必要な基礎的知識・専門的知識・安全管理技術などに関する理解を深め、筆記試験に合格する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人日本山岳ガイド協会編　『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』『自然ガイド・登山ガイド職能別ガイド検定試験筆記試験問題集』				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【基礎的知識】第1章　基礎的知識	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
2	【基礎的知識】第1章　基礎的知識	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
3	【基礎的知識】第2章ガイド業務に関する知識と法律、第3章自然解説技術の基礎	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
4	【専門知識】第1章ルートガイディングに関する知識	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
5	【専門知識】第1章ルートガイディングに関する知識	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
6	【専門知識】第2章ガイドに必要なロープワーク、第3章ガイドの安全管理技術	
7	【専門知識】第5章コミュニケーションの技術、第6章ガイド業務とは、 第7回までの授業内容の再確認	パワーポイント資料とテキストを使用した学習
8	基礎的知識及び専門知識の範囲内での模擬試験	授業内容全般から幅広く出題

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び小テスト・学期末テストにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	本授業は筆記試験本番に向けての知識ベース作りとなるので、授業以外の時間も使い、しっかりと自己学習をすること。

実務経験教員の経歴	自然ガイド歴5年・専門学校での講師歴1年

科目名	アウトドアスポーツ実習（ウォーター）			授業の方法	演習
担当教員	庚敏久・河野健児		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育アウトドアスポーツ学科	対象学年	3	開講時期	通年（前期）
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	アウトドアアクティビティを経験しながら、業務の留意点や顧客へのサービス内容の工夫を学ぶ。またそのアクティビティや仕事の魅力を知る。各事業の成り立ち、事業内容、今後の事業展開、戦略、方向性など各アクティビティを通したビジネス構築、地域資源活用や地域活性とのつながり、メーカーとのコラボレーションなどプログラムを行なっている現場でその実際を学ぶ				
学習目標（到達目標）					
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	Power drive 117　庚敏久氏 ・座学＋ラフティング体験 事業の成り立ちや現状の事業、今後の事業展開、戦略、方向性などカヤック、ラフティングを通したアウトドアビジネス、地域資源活用や地域活性とのつなが	
2		
3	NOZAWA GREEN field　河野健児氏 ・座学＋SUP体験 事業の成り立ち現状の事業、今後の事業展開、戦略、方向性などSUPやtreehouseを通したアウトドアビジネス、地域資源活用や地域活性とのつながり、メーカー等とのコラボレーションについて	
4		
5		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、主体性、及び目標に対する達成度から総合的に評価します。取組む姿勢も評価対象となります。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	各事業にて５年以上の実務経歴あり

科目名	動物行動学	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	動物の行動が自然淘汰のメカニズムを通じて進化してきた事実を理解し、生きものに見られる不思議な行動も進化という観点から考えるとよく理解できることを伝えます。また、動物の行動だけでなく、生きものの生態・形態等も進化のプロセスを経て形づくられてきたことを理解することで、自然を見る目を養うことも目的としています。				
学習目標（到達目標）	動物行動学の観点から、生物を考えることができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキストは使いませんが、必要な資料は授業中にプリントとして配布します。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	動物行動学序論	スライド・板書を使用した学習
2	動物行動の謎	スライド・板書を使用した学習
3	自然淘汰による進化のメカニズム	スライド・板書を使用した学習
4	利他行動の謎	スライド・板書を使用した学習
5	古典的適応度と包括適応度	スライド・板書を使用した学習
6	真社会性昆虫（ハチ・アリ）の謎	スライド・板書を使用した学習
7	性選択	スライド・板書を使用した学習
8	性選択の実例と理論・まとめ	スライド・板書を使用した学習。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業態度、最終試験から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わないません。

実務経験教員の経歴	

科目名	地球環境科学	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ学科/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	地球や地域の環境をとりまく諸問題と、その解決に向けた社会、経済的な取組を幅広く学ぶ。授業では、毎回学生が決定したテーマについて発表し、その後、発表した内容やテーマについてのディベートを行う形式とし、自ら考え、他者に意見を述べるプロセスを通して「伝える」スキルの向上を目指す。				
学習目標（到達目標）	①地球環境や地域の問題を当事者の視点から身近な問題として理解できる。②豊かな自然やその恵みにあずかっている私たちの暮らしが、今後もよりよい状態で続いていくために何をすべきなのか、何ができるのかについて自ら考えることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料を学生が作成し発表。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	授業ガイダンス、環境問題グループワーク、発表テーマの決定（各学生）	地球環境問題について、各自まとめ、グループデスカッション後、発表する。
2	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート①	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
3	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート②	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
4	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート③	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
5	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート④	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
6	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑤	
7	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑥	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。
8	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑦	地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめてきた内容を発表する。聴講者は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入する。

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	地球環境問題の中から、各自テーマを決定し、パワーポイントにまとめてきた内容を発表してもらいます。聴講側となった学生は「コメントシート（A5）」に自分の意見をまとめ記入し、グループ内で発表および討論をしてもらいます。

実務経験教員の経歴	北海道大学大学院にて博士号（地球環境科学）を取得。

科目名	マリンスポーツ実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	小野 彰太、非常勤講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/アウトドアプロインストラクター学科	対象学年	2/1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	2泊3日の海上、海浜活動を通して、以下の目標および技術習得を達成し海というフィールドの理解と魅力を体得することを目的とする。				
学習目標（到達目標）	・カヤックキャンプツーリングに必要な技術、知識の習得 ・海というフィールドについての特性、魅力、危険性について理解する ・フィールドを持続的に利用していくという視座を持つ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜資料として配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、目標設定、装備・食材準備、遠征計画作成	講義、グループワーク（個人作業⇒グループ共有⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備）
2	実習地移動、カヤックオリエンテーション、キャンプ地オリエンテーション、テント・タープ設営、野外炊事①、シュノーケリング、フィッシング、テント泊	講義、実地演習、振り返り・グループワーク
3	野外炊飯②、カヤックツーリング（キャンプ地～福浦八景～番神海水浴場）、野外炊飯③、テント泊	実地演習、グループワーク、振り返り
4	野外炊飯④、撤収、カヤック移動、実習総括	実地演習、ふりかえり、レポート作成
5		
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	アウトドアスポーツ実習で培ったカヤックスキルの応用実習です。各自、カヤックに関する知識、スキルを確認して実習に臨んで下さい。また、キャンプスキルについても今までの経験が活きてきます。積極的に参加し、効率よく学びの場を作っていきましょう。

実務経験教員の経歴	小野：野尻湖でのカヤック、SUPガイド。初心者向けのカヤック体験会の企画・運営などの経験多数。 自身の所属するJSCA（日本セーフティカヌーイング協会）ベーシック検定員。自然ガイド。 小豆島でのシーカヤックガイドの経験や素潜りを通じて海での活動にも精通する。

科目名	プログラム企画運営Ⅰ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	田辺慎一/服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	ノルディックウォーキング教室、ノルディックハーフマラソンとMURA18の大会運営を行う事で、アウトドアスポーツの指導方法、イベント運営方法も学んでいきます。				
学習目標（到達目標）	ノルディックフィットネスのインストラクション方法を学ぶ。また大会の企画運営のノウハウを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	授業での持ち物、時間等の連絡はその都度事前に行いますので確認をお願いします。また天候により内容・場所を適時検討することもあります。授業は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますのでよろしくお願いします。
2	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
3	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
4	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
5	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
6	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
7	げんき妙高NW教室準備＆MURA片づけ	
8	げんき妙高NW教室準備＆MURA片づけ	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	田辺慎一実務経歴10年、服部正秋実務経歴7年

科目名	プログラム企画運営Ⅱ	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	田辺慎一/服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	ノルディックウォーキング教室、ノルディックハーフマラソンとMURA18の大会運営を行う事で、アウトドアスポーツの指導方法、イベント運営方法も学んでいきます。				
学習目標（到達目標）	ノルディックフィットネスのインストラクション方法を学ぶ。また大会の企画運営のノウハウを学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	授業での持ち物、時間等の連絡はその都度事前に行いますので確認をお願いします。また天候により内容・場所を適時検討することもあります。授業は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますのでよろしくお願いします。
2	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
3	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
4	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
5	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
6	げんき妙高NW教室準備＆MURA準備	
7	げんき妙高NW教室準備＆MURA片づけ	
8	げんき妙高NW教室準備＆MURA片づけ	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	田辺慎一実務経歴10年、服部正秋実務経歴7年

科目名	アウトドアスポーツ指導演習	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	服部正秋/田辺慎一	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。1年次に経験したアウトドアアクティビティの技術・知識を更に深める。アウトドアスポーツが野外活動の中でのニーズが高まっている事、またそれらの安全管理やインストラクションができるようになることを目標とする。また当校の2つのアウトドアスポーツイベントの中心スタッフとして企画運営に携わりアウトドアイベントのマネジメント能力を高める				
学習目標（到達目標）	各アウトドアスポーツの安全管理、インストラクション方法を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ノルディックハーフマラソン進捗状況確認、準備	各アウトドアスポーツに関しては、その都度、事前に持ち物、時間等の連絡をします。また天候により内容・場所を適時検討することもあります。授業は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。
2	ノルディックハーフマラソン準備、NW教室下見	
3	ノルディックハーフマラソン準備	
4	ノルディックウォーキング	
5	ナビゲーション基礎（笹ヶ峰）	
6	MTB	
7	カヤック	
8	SUP	
9	山岳ロードマラソン入門（MURA18コース）	
10	ロングトレイル入門（信越トレイル）	
11	ナビゲーション基礎（笹ヶ峰）	
12	トレイルランニング	
13	オリエンテーリング	
14	MTB	
15	積雪期登山入門（スノーシューハイク）	
16	クロスカントリースキー	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	田辺慎一実務経歴10年、服部正秋実務経歴7年

科目名	卒業研究	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	遠藤晋	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	3/2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	自分が興味を持って調べ、まとめ、人に伝える（発表する）ことは、自分をさらけだすことでもあります。社会に出ると、アイデア立案、企画作成、業務運営等の様々な場面で、意見を求められたり、考えをまとめ伝えるなど、「自分」を相手にさらけだす（伝える、表現する）機会が数多くやってきます。【目的】卒業研究では、自ら気づき、調べ、まとめたものを最終的に卒業論文や発表会でのプレゼンとして完成させる。				
学習目標（到達目標）	卒業研究を進める過程を通し、自分が暮らす現実社会や仕事として携わる業界に関する問題・課題を見つけ出し、現状を調査し、解決策・改善策・将来ビジョンを提示する基本的なスキルを習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション（卒業研究の概要）、テーマの決定	■ノートPC持参
2	テーマの決定、研究計画の作成・発表、調査・制作活動１（教員が個別に対応する）	■ノートPC持参
3	調査・制作活動２（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
4	調査・制作活動３（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
5	調査・制作活動４（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
6	調査・制作活動５（教員が個別に対応する）	
7	調査・制作活動6（教員が個別に対応する）、中間発表準備	■ノートPC持参
8	中間発表	■ノートPC持参
9	調査・制作活動7（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
10	調査・制作活動8（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
11	調査・制作活動9（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
12	調査・制作活動10（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
13	調査・制作活動11（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
14	調査・制作活動12（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
15	発表用資料（pptファイル）の作成・準備	■ノートPC持参
16	発表練習（発表時間：発表12分＋質疑応答3分/人）	■ノートPC持参

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、卒業研究への取組み、卒業研究の内容・完成度および発表会でのプレゼン能力等で総合的に評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■卒業研究発表会で発表します ■卒研は、「自分の力」でやり遂げることがもっとも大切です。もちろん、わからないことはどんどん聞いて下さい。アドバイスを得ながら作業を進めることも、期限内に卒論（仕事）を完成させる「自分の力」の重要な要素だからです。時間的、労力的、精神的にきつい時があるかと思いますが、皆に見せたい論文、皆に聞かせたい発表を作り上げてください。

実務経験教員の経歴	

科目名	プログラムマネジメント	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	演習
担当教員	吉田理史		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	組織キャンプ（妙高冒険キャンプ）の企画・運営・評価の一連を通して、野外教育活動におけるディレクション能力を身に付けることを目的とする				
学習目標（到達目標）	公益社団法人日本キャンプ協会キャンプディレクター2級（※）の合格 ※ディレクター2級資格を取得するには、①キャンプインストラクター資格所持（会費納入済であること）、②インストラクター資格取得後2泊3日以上の指導経験のそれぞれが必要。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	財団法人日本キャンプ協会「キャンプディレクター必携」（キャンプディレクター2級受験必須テキスト）。その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、キャンプディレクター2級理論①	ディレクターに求められる資質について討議（ワークショップ形式）
2	キャンプディレクター2級理論②	「SPECモデル」の体験、活用方法の検討（ワーク形式）
3	キャンプディレクター2級筆記試験 キャンプマネジメントの実際①　妙高冒険キャンプの概要説明と役割分担	試験（間違え箇所の理解を含む）、妙高冒険キャプの歴史・本番までの準備内容について検討
4	キャンプマネジメントの実際②　妙高冒険キャンプの企画	妙高冒険キャンプの目的・キーワードを確定させるための思いの共有（ワークショップ形式）
5	キャンプマネジメントの実際③　妙高冒険キャンプの企画	妙高冒険キャンプの役割分担、概要の検討
6	キャンプマネジメントの実際④　妙高冒険キャンプの企画 （※2年生との合同授業　キャンプの目的、概要、役割、事前説明会の予定等を共有）	
7	キャンプマネジメントの実際⑥　妙高冒険キャンプの企画、事前説明会の準備	妙高冒険キャンプのしおり作成、事前説明会のシミュレーションワーク
8	キャンプマネジメントの実際⑥　妙高冒険キャンプの企画	妙高冒険キャンプのプログラム準備、マネジメント準備

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業に臨む意欲･態度、レポート等によって総合的に判断する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	＊本科目はキャンプディレクター2級養成講習会を兼ねています。 ＊授業の進行程度により、各日程の授業内容が変更となる場合があります。 ＊キャンプインストラクターの資格更新料振込を必ず済ませておくこと（D2の資格申請ができません） ＊「妙高冒険キャンプ」事前説明会の運営も行います。

実務経験教員の経歴	株式会社信州アウトドアプロジェクト所属、（公社）日本キャンプ協会指導者養成委員、キャンプ指導歴10年以上

科目名	自然体験活動指導実践Ⅰ	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	小野 彰太		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	本科目では、国際自然環境アウトドア専門学校（以下、i-nac）生涯学習室の主催する組織キャンプ（妙高雪上キャンプ）の指導運営を通して、宿泊型の自然体験活動の指導・運営スキルの獲得を目指す。				
学習目標（到達目標）	・ 組織キャンプにおける指導者（カウンセラー）として必要な知識・技術の獲得 ・ 短時間の雪上活動の企画、運営（ファシリテート）を実践する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人 日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、担当企画の決定・準備、キャンプにおける役割の確認・スタッフトレーニング	講義、グループワーク
2	保護者説明会（アイスブレイク実施）、スタッフトレーニング	講義、演習、グループワーク
3	妙高雪上キャンプ1日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
4	妙高雪上キャンプ2日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
5	妙高雪上キャンプ3日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
6	妙高雪上キャンプ4日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、企画書提出状況、カウンセラー日誌及び報告書の作成状況、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	プログラムの企画、準備については授業時間外におこないます。そこで発生する上記日程に予定されていない下見、準備等については、別途連絡をしますので柔軟に対応してください。 また、実際のキャンプ運営が円滑に進められるよう、準備段階から受講生全体のコミュニケーションが密になるよう心がけてください。

実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。

科目名	自然体験活動指導実践Ⅱ	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	小野 彰太	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	72時間
授業概要、目的、授業の進め方	本科目では、国際自然環境アウトドア専門学校（以下、i-nac）生涯学習室の主催する組織キャンプ（妙高冒険キャンプ）の指導運営を通して、長期宿泊型の自然体験活動の指導・運営スキルの獲得を目指す。				
学習目標（到達目標）	組織キャンプにおける指導者（カウンセラー）として必要な知識・技術の獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人 日本キャンプ協会「キャンプ指導者入門」				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、キャンプにおける役割の確認・スタッフトレーニング	講義、グループワーク
2	保護者説明会（アイスブレイク実施）、スタッフトレーニング、下見	講義、演習、グループワーク
3	妙高冒険キャンプ1日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
4	妙高冒険キャンプ2日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
5	妙高冒険キャンプ3日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
6	妙高冒険キャンプ4日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	
7	妙高冒険キャンプ5日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り、レポート作成
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、準備状況、カウンセラー日誌及び報告書の作成状況、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	キャンプの準備については授業時間外におこないます。そこで発生する上記日程に予定されていない下見、準備等については、別途連絡をしますので柔軟に対応してください。 また、実際のキャンプ運営が円滑に進められるよう、準備段階から受講生全体のコミュニケーションが密になるよう心がけてください。

実務経験教員の経歴	小野：i-nac生涯学習室担当。民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。

科目名	インターンシップ実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	遠藤晋/受入企業・団体	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	120時間以上
授業概要、目的、授業の進め方	「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築				
学習目標（到達目標）	①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■インターンシップ実習の手引き、■学生調書　■志望動機書　■その他配布資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	インターンシップガイダンス、受入先の希望調査	希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。
2	受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出	学生調書（excel）、動機書（word）をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。
3	受入先への連絡（挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど）	学生自身が受入担当者に電話連絡
4	受入先における研修（7月下旬から9月中旬の期間で実働15日以上）	研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。
5	研修後、インターンシップ報告書を作成。	報告書（powerpoint）を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、インターンシップ日誌の内容（業務遂行レベル）、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書（powerpoint）の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。

実務経験教員の経歴	インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。

科目名	自然ガイド検定対策Ⅰ	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	遠藤晋/外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	本実習は、日本山岳ガイド協会が認定する自然ガイド資格取得に必須です。合否を問われる検定ではありませんが、各学生のガイドスキルが自然ガイド資格認定レベルに達しているかどうかについて、ガイド協会の検定員が確認します。				
学習目標（到達目標）	（公社）日本山岳ガイド協会認定自然ガイド資格　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・『ガイドの基礎的知識　教本』（日本山岳ガイド協会編）・『自然・登山ガイドの専門的知識　教本』（日本山岳ガイド協会編）・『山のファーストエイド　教本』（日本山岳ガイド協会編）・『筆記試験過去問題集』（日本山岳ガイド協会編）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	講義：「ガイドの心構え」、「ガイドの仕事」、「ガイド業界の現状」、「ガイドの技術」、ほか	講義 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
2	学科試験対策	講義 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
3	安全管理講習	実技講習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 学内ロビーや学校周辺のフィールドで、ロープワーク等の技術講習を実施。
4	山岳地域においてルートガイディングの実践	実技講習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。
5	山岳地域においてルートガイディングの実践	実技講習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。

評価方法・成績評価基準	
出席率、授業姿勢、実技レベル等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■確認される技術についてはテキスト『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』の内容に準じますので、事前に熟読のこと。 日本山岳ガイド協会試験委員会の検定員であるプロのガイドが講師を務めるので。本番の試験を受ける緊張感を持ち取り組んでください。 ■レスキュー等のロープワークも含まれますので、ガイド基本装備をすべて用意し、野外で活動できる服装で参加すること。上に着る服は襟付きのものとする。 ■以下は個人で準備すること：30mロープ、カラビナ類、スリング類、ツエルト（2～3人用以上）、ヘッドランプ×2（顧客用予備含）、FAキット、火器食器

実務経験教員の経歴	外部講師：（公社）日本山岳ガイド協会試験委員会検定員

科目名	自然ガイド検定対策Ⅱ	授業形態		授業の方法	実習
担当教員	遠藤晋/外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	本実習は、日本山岳ガイド協会が認定する自然ガイド資格取得に必須です。合否を問われる検定ではありませんが、各学生のガイドスキルが自然ガイド資格認定レベルに達しているかどうかについて、ガイド協会の検定員が確認します。				
学習目標（到達目標）	（公社）日本山岳ガイド協会認定自然ガイド資格　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・『ガイドの基礎的知識　教本』（日本山岳ガイド協会編）・『自然・登山ガイドの専門的知識　教本』（日本山岳ガイド協会編）・『山のファーストエイド　教本』（日本山岳ガイド協会編）・『筆記試験過去問題集』（日本山岳ガイド協会編）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイド概論(ガイドの心構え・ガイドの仕事・ガイド業界の現状・ガイドの技術ほか)	講義 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
2	ファーストエイド・危急時対応	実技講習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
3	フィールドワーク（ルートガイディング実践）	実技講習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員
4	フィールドワーク（自然解説技術）	実技講習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 東俣沢観音沢～旧御射山～ヒュッテジャヴェル（山小屋泊） ＊事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。
5	フィールドワーク（自然解説技術）	実技講習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 ヒュッテジャヴェル～車山湿原～八島ヶ原湿原～観音沢登山口 ＊事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。

評価方法・成績評価基準	
出席率、授業姿勢、実技レベル等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■確認される技術についてはテキスト『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』の内容に準じますので、事前に熟読のこと。 日本山岳ガイド協会試験委員会の検定員であるプロのガイドが講師を務めるので。本番の試験を受ける緊張感を持ち取り組んでください。 ■レスキュー等のロープワークも含まれますので、ガイド基本装備をすべて用意し、野外で活動できる服装で参加すること。上に着る服は襟付きのものとする。 ■以下は個人で準備すること：30mロープ、カラビナ類、スリング類、ツエルト（2～3人用以上）、ヘッドランプ×2（顧客用予備含）、FAキット、火器食器
実務経験教員の経歴	外部講師：（公社）日本山岳ガイド協会試験委員会検定員

科目名	アウトドアライフ企画実践実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ学科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	ノルディックハーフマラソン運営を通して、アウトドアスポーツイベント企画運営、マネジメント、地域活性、スポーツツーリズムを学ぶ。 ノルディックハーフマラソン大会の企画、運営準備				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	・コース整備・ホームページ管理・参加者状況確認整理・発送作業・協賛各社打ち合わせ・会場レイアウト・地域との打ち合わせ、挨拶・報道関係以来・参加賞・商品整理・備品確認・各関係各所申請、打ち合わせ等	・作業（草刈り等）できるしたく（長靴、軍手、長そで長ズボン等）・草刈り機・パソコン・筆記用具・着替え等

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	当実習は外部との連携や協力によって大会運営ができています。実習は先方への挨拶や打ち合わせ等も多く行うことから授業時間の範囲以外になる事もあります。

実務経験教員の経歴	実務経歴7年

科目名	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ実践	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	吉田理史	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	72時間
授業概要、目的、授業の進め方	本科目では、国際自然環境アウトドア専門学校（以下、i-nac）生涯学習室の主催する組織キャンプ（妙高冒険キャンプ）の指導運営を通して、長期宿泊型の自然体験活動の指導・運営スキルの獲得を目指す。				
学習目標（到達目標）	・ 組織キャンプにおける指導者（プログラムディレクター、マネジメントディレクター、ほか）として必要な知識・技術の獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	財団法人日本キャンプ協会「キャンプディレクター必携」（キャンプディレクター2級受験必須テキスト）。その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、キャンプにおける役割の確認・スタッフトレーニング	講義、グループワーク
2	保護者説明会（アイスブレイク実施）、スタッフトレーニング、下見	講義、演習、グループワーク
3	妙高冒険キャンプ1日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
4	妙高冒険キャンプ2日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
5	妙高冒険キャンプ3日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り
6	妙高冒険キャンプ4日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	
7	妙高冒険キャンプ5日目（子どもへのカウンセリング、担当活動のファシリテート、安全管理補助）	実地演習、振り返り、レポート作成
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、準備状況、カウンセラー日誌及び報告書の作成状況、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	キャンプの準備については授業時間外におこないます。そこで発生する上記日程に予定されていない下見、準備等については、別途連絡をしますので柔軟に対応してください。 また、実際のキャンプ運営が円滑に進められるよう、準備段階から受講生全体のコミュニケーションが密になるよう心がけてください。

実務経験教員の経歴	株式会社信州アウトドアプロジェクト所属、（公社）日本キャンプ協会指導者養成委員、キャンプ指導歴10年以上

科目名	エコツアー実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	遠藤晋/外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	①エコツーリズムの概念を理解し、里山里海地域での可能性を探る。 ②自然観光と地域づくりの先進地を訪問し、エコツーリズムの取り組み事例を学ぶ。 ③訪問した先進地において体験・評価した地域資源をベースに、既存資源を新たに活用したエコツアーを企画・プレゼンし、企画にかかる一連のプロセスを経験する。				
学習目標（到達目標）	地域の資源特性を活用した着地型エコツアー商品を企画・造成できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料を適宜配布。関連情報のURL等を随時連絡。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス後、実習地（自然観光の先進地）に移動。ツアー企画会議（コンセプトづくり、翌日の打合せ等）	活動主体（チーム　or 個人）は、受講生が話し合って決定します。
2	現地資源調査、キーパーソンのヒアリング、プレゼン資料.ppt作成。ツアー企画会議（ヒアリング・資源調査まとめ、コンセプトづくり、翌日の打合せ等）	各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。
3	現地資源調査、キーパーソンのヒアリング、プレゼン資料.ppt作成。ツアー企画会議（ヒアリング・資源調査まとめ、コンセプトづくり、翌日の打合せ等）	各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。
4	■午前：プレゼン資料.ppt最終チェック、発表準備 ■午後：企画プレゼン、実習まとめ（企画、活動振り返り等）。終了後、妙高に移動。	各活動・作業は、学生が主体的に実践します。原則、教員はアドバイザーとして関わります。
5		
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	着地型の旅行商品造成のプロセス（現地資源調査、ヒアリング、旅行商品の企画・プレゼン等）を実践します。プレゼンには、現地の観光関係者（宿泊業、観光協会、自治体観光課等）が出席しますので、実際の仕事として実習に臨むようにしてください。

実務経験教員の経歴	自然系博物館で森林資源評価・保全と地域活性化に2年間従事。地元温泉組合、自然ガイド団体と連携した着地型エコツアーを企画・コーディネート。

科目名	ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ実習（MTB）	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	服部正秋/遠藤晋	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ	対象学年	3/1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	①サイクルツーリングに関する基礎知識・技術の習得（ロングツーリング・トレイルライド・輪行・マナー・装備など）　②地形・路面（ダウンヒル、ヒルクライム、コーナー、トレイル）に対応したライディング技術（フォーム、ポジショニング、バランス、ペダリング、ブレーキング、コーナリング等）の向上　③基本的なバイクメンテナンス技術の習得　④サイクルスポーツを活用した町づくり・観光の現状について考察する				
学習目標（到達目標）	MTB体験の指導やツアープログラムの企画・ガイドに必要な専門知識・技術を習得し、アウトドアスポーツの視野を広げる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日誌を配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	実習ガイダンス、使用バイク配車、バイク/ヘルメットチェック・調整、ライディング講習、ホイール着脱・輪行講習、ふれPトレイル走、パンク修理、MTBの種類（講習）	ライディング技術の学習・実践 バイクメンテナンス方法の学習・実践
2	ツーリング実践	ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ
3	ツーリング実践	ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ
4	ツーリング実践	ヒルクライム、トレイルライド、ダウンヒル、公道を利用したロングライドなど、MTBの様々な楽しみ方を実線を通して学ぶ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、実習中の習熟レベル、日誌等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	主担当：MTB等サイクルスポーツ歴5年（200km以上のロングツーリング経験豊富、MTBでのトレイルライド経験豊富）

科目名	雪上スポーツ指導実習	授業形態	対面のみ	授業の方法	実習
担当教員	服部正秋/小野彰太/外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキーの指導力の向上を図る。				
学習目標（到達目標）	各自の技術レベルに応じて、滑走技術の指導ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	事前に「受講調査票」を配布。その他資料を適宜配布。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	■実施場所：杉ノ原スキー場 ■活動班：習得レベル別（下記4段階）に分けられた班（1年生）に対し、自分の技術レベルにあった班の指導を行う ア．はじめて。 イ．ﾌﾟﾙｰｸﾎﾞｰｹﾞﾝでｽｷｰ場の初級者ｺｰｽを滑走できる。 ウ．ﾊﾞﾗﾚﾙﾀｰﾝでｽｷｰ場の中級者ｺｰｽを滑走できる。 エ．ｽｷｰ場の上級者ｺｰｽで安定した滑走ができる。 ■装備：□スキー　□ブーツ　□スキーポール □雪上活動用ウェア（厚手）☒帽子（ニット）☒ □グローブ　□ゴーグル　□昼食 □日焼け止め等その他必要なもの ■チケット手配に関して ＊スキー場での3日間は、杉ノ原スキー場のシーズンパスを持っている学生（もしくはスーパーシーズン券等持っていて使用できる学生）はそれを使ってください。 ＊シーズンパスを持っていない学生は1日券×3日分を当日、自分でスキー場で購入してもらいます。
2	■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	
3	■i-nac出発（8:30までに公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（16:00までに公用車に積込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散	
4	■i-nac出発（9:00までに公用車に積み込み、乗込み） ■クロスカントリーコースにて講習 ■i-nacにて解散	■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカントリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ ウインドブレーカーもしくはレインウエアのような薄手の上下ウエア（防寒対策として厚手のウエアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等　天気が良ければかなり汗をかきます）　□サングラス（ゴーグルだとくもります） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど）　□日焼け止め　□昼食　□飲み物等

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、実技習得レベル等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	■服部正明：クロスカントリースキー競技歴30年、国体出場9回　■田辺慎一：スキー歴30年以上、指導歴10年以上　■外部講師：スキースクール講師

科目名	ホームルーム	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	①実習、学校行事等のオリエンテーションを通し、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ②学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕のマインドを養う。 ③学科別オリテ、海外研修オリテ、特別授業等を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	海外研修オリエンテーション（406/407）	12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査
2	学科別HR①（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	実習オリエンテーション（5月、6月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
4	学科別HR②（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR③（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学科別HR④（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR⑤（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR⑥（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR⑦（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR⑧（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR⑨（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）

実務経験教員の経歴	専門学校での副担任歴1年

科目名	ホームルーム	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	小野彰太	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾞｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。 ②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ③学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ④学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	海外研修オリエンテーション（406/407）	12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査
2	学科別HR①（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	実習オリエンテーション（5月、6月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
4	学科別HR②（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR③（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学科別HR④（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR⑤（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR⑥（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR⑦（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR⑧（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR⑨（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾞｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）

実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴1年以上。

科目名	ホームルーム	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	斎藤達也	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	①実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ②学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ③学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	海外研修オリエンテーション（406/407）	12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査
2	学科別HR①（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	実習オリエンテーション（5月、6月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
4	学科別HR②（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR③（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学科別HR④（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR⑤（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR⑥（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR⑦（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR⑧（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR⑨（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）

実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴1年目。

科目名	特別授業	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人　としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を牽引している方からの講演	講演形式、筆記用具、
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	特別授業	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人　としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を牽引している方からの講演	講演形式、筆記用具、
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	特別授業	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/クライミングインストラクター	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人　としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を牽引している方からの講演	講演形式、筆記用具、
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	海外研修	授業形態	対面・遠隔併用	授業の方法	実習
担当教員	外部講師/斎藤達也		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	3/2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	80時間
授業概要、目的、授業の進め方	外国人旅行者への対応能力の向上と、海外における先進的なエコツーリズム・アウトドア・クライミング業界の動きを学ぶため、7～10日程度の海外研修を実施する。研修中はインストラクターが帯同し、滞在国における学びや生活の支援を頂きつつ、アウトドア・クライミング施設や自然公園等をご案内頂く。2019年度はアメリカ合衆国ボーズマンおよびイエローストーン国立公園で研修を行う。				
学習目標（到達目標）	①英語によるコミュニケーション能力の向上 ②海外でのアウトドア・環境保全・クライミングの流れについて自分なりの考え方をもつ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	海外旅行や研修先の国に関する書籍（地球の歩き方等）を各自読んでおくこと。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	1～2日目：移動（成田/羽田⇒ボーズマン） 3日目～ ・オオカミなどの観察や野生動物の生態系についての学習 ・アメリカの国立公園における野生動物の保護管理についての学習 ・ボーズマンのスキー場における雪崩管理、スキーパトロールについての学習 ・クライミングジムの管理運営等についての学習 ・地元の方との英語コミュニケーション （内容と研修日数は年により変動） 最終日：移動（ボーズマン⇒成田/羽田）	学習方法は以下の通り。 ・地元のガイド・インストラクターからのインタープリテーションを受講 ・日本国内の自然についての英語によるインタープリテーションの実践 ・グループワーク・ディスカッション ・英語による地元の方とのコミュニケーション

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席、生活態度、イベントへの参加姿勢、協調性、研修後のレポートの完成度から総合的に評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	海外研修では集団活動がメインとなり、日本と研修先の国家では文化や常識も異なります。協調性をもち、慎重に行動してください。また、英語でのコミュニケーション能力を向上させる機会ですので、積極的なイベントへの参加が求められます。

実務経験教員の経歴	

科目名	就職準備研修Ⅰ	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ/自然環境保全/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	実践行動学のテキストを通して、他者との関わりの中で自分自身について振り返る。また、社会におけるコミュニケーションの重要性を理解する。				
学習目標（到達目標）	Part1　学校生活のスタートラインに立っている時期に過去の時分を振り返り、また現在・近未来の時分について考えることを通して短期目標を設定する。 Part2　入学後から現在までを振り返り、自らの成長の足跡を確認する。そのうえで、自己の潜在的能力や可能性を引き出すための考え方や意識の持ち方に気づきを与えるとともに、自立に向けた技術・方策を提供する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実践行動学研究所　夢実現のための実践行動学				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	Part1　意欲的な心構え マジックドア1　夢と目標 マジックドア2　夢を喰うバク…「誤った思い込み」と「言い訳」 マジックドア3　自分への信頼を取り戻すために その1　行動のよりどころと心構え マジックドア4　自分への信頼を取り戻すために その2　まず第一歩を マジックドア5　目標を設定しよう	テキスト読み合わせ・グループワーク
2	Part2　自分の可能性を広げよう マジックドア1　プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる マジックドア2　考え方を変えれば行動が変わる マジックドア3　あなたの問題は、あなたが解決できる マジックドア4　あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう マジックドア5　目標が才能・可能性を開花させる	テキスト読み合わせ・グループワーク

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	自分と向き合うと同時に、他者の考えに触れられる貴重な時間です。意欲的に取り組んでください。

実務経験教員の経歴	専門学校での「就職実務」担当（2年以上）

科目名	就職準備研修Ⅱ	授業形態	対面のみ	授業の方法	演習
担当教員	斎藤達也		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｱｳﾄﾄﾞｱﾌﾟﾛ/ｷｬﾝﾌﾟﾋﾞｼﾞﾈｽ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	就職活動に対しての心構えを持ち、面接試験対策、特に集団面接のための技術を習得する。				
学習目標（到達目標）	就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）■模擬面接質問内容　■面接入退室資料　■ 模擬面接スケジュール表　■グループ面接名簿　■面接評定表　■進路希望調査　■その他資料（ワークシート）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	個人面接_模擬面接の実施 ＊15分程度（フィードバック含む）/人	■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、個人面接の実施
2	集団面接_模擬面接の実施 ＊10分間/人の面接とフィードバックで50分～1時間程度	■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、集団面接の実施
3		
4		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	専門学校での就職活動指導歴3年以上。

科目名	ビジネスマナー研修	授業形態		授業の方法	演習
担当教員	外部講師	実務授業の有無		○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ 自然ガイド・環境保全 山岳プロ ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	社会人としての心構えを持ち、基礎的なビジネスマナーを習得する。				
学習目標（到達目標）	社会人としての心構え、ビジネスマナー、税金、納税のしくみ等を学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・筆記用具・スーツ・テキスト（講師準備）・名刺入れ				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ビジネスマナー研修（基本的ビジネスマナーと実践）	外部講師講義　ミワアシスタンス
2	ビジネスマナー研修（給与のしくみについて）	学校法人新潟総合学園人材開発部
3	ビジネスマナー研修（租税教育）	外部講師　小菅税理士事務所

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	・研修中は全日程スーツ着用で参加すること。

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義5年以上